

Ⅱ 調査の結果

1 県民対象の地域課題に関する意識・行動調査

(1) 回収数および回収率と調査対象者の属性

① 回収数および回収率

調査対象者 2,400 名中、2,361 名の回答があった。回収率は 98.4%であった。各地区、各市町からの回収数は以下のとおりである。

地区別		
河内地区	n= 264	11.2%
上都賀地区	n= 262	11.1%
芳賀地区	n= 238	10.1%
下都賀地区	n= 714	30.3%
塩谷南那須地区	n= 346	14.7%
那須地区	n= 263	11.1%
安足地区	n= 274	11.6%
合計	N= 2,361	100%

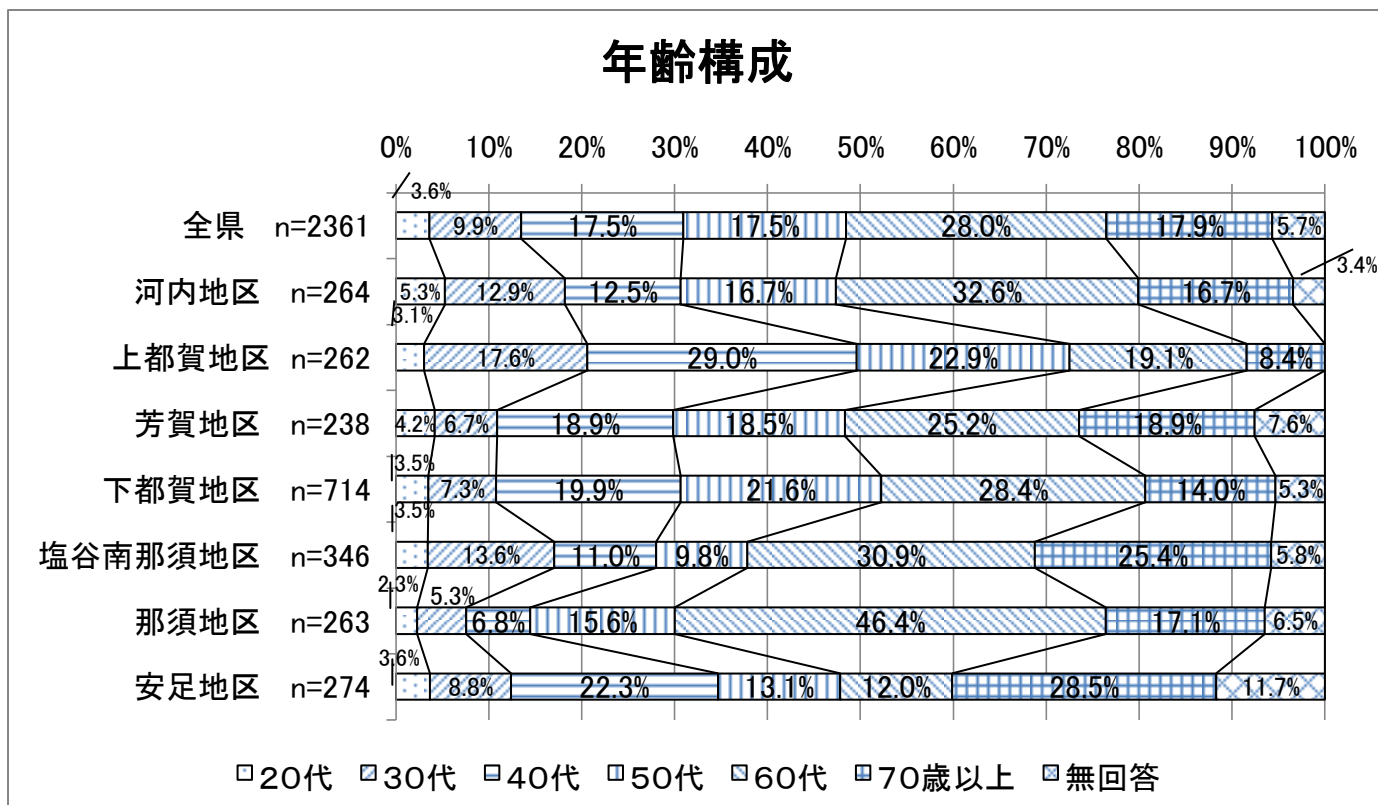
年代別		
20代	n= 85	3.8%
30代	n= 233	10.5%
40代	n= 413	18.5%
50代	n= 413	18.5%
60代	n= 661	29.7%
70歳以上	n= 422	18.9%
合計	N= 2,227	100%

性別		
女性	n= 1,428	35.6%
男性	n= 789	64.4%
合計	N= 2,217	100%

なお、回答は、一部指示を満たしていないものもあるが、サンプル数を確保するために全ての回答を有効データとして使用した。また、年齢で 134 名、性別では 144 名が無回答であったため、合計数がそれぞれ異なる。

市町別		
宇都宮市	n= 211	8.9%
上三川町	n= 53	2.2%
鹿沼市	n= 133	5.6%
日光市	n= 129	5.5%
真岡市	n= 108	4.6%
益子町	n= 37	1.6%
茂木町	n= 26	1.1%
市貝町	n= 32	1.4%
芳賀町	n= 35	1.5%
壬生町	n= 90	3.8%
野木町	n= 67	2.8%
岩舟町	n= 25	1.1%
小山市	n= 249	10.5%
栃木市	n= 159	6.7%
下野市	n= 124	5.3%
矢板市	n= 70	3.0%
さくら市	n= 72	3.0%
那須烏山市	n= 39	1.7%
塩谷町	n= 40	1.7%
高根沢町	n= 82	3.5%
那珂川町	n= 43	1.8%
大田原市	n= 100	4.2%
那須町	n= 41	1.7%
那須塩原市	n= 122	5.2%
佐野市	n= 124	5.3%
足利市	n= 150	6.4%
合計	N= 2,361	100%

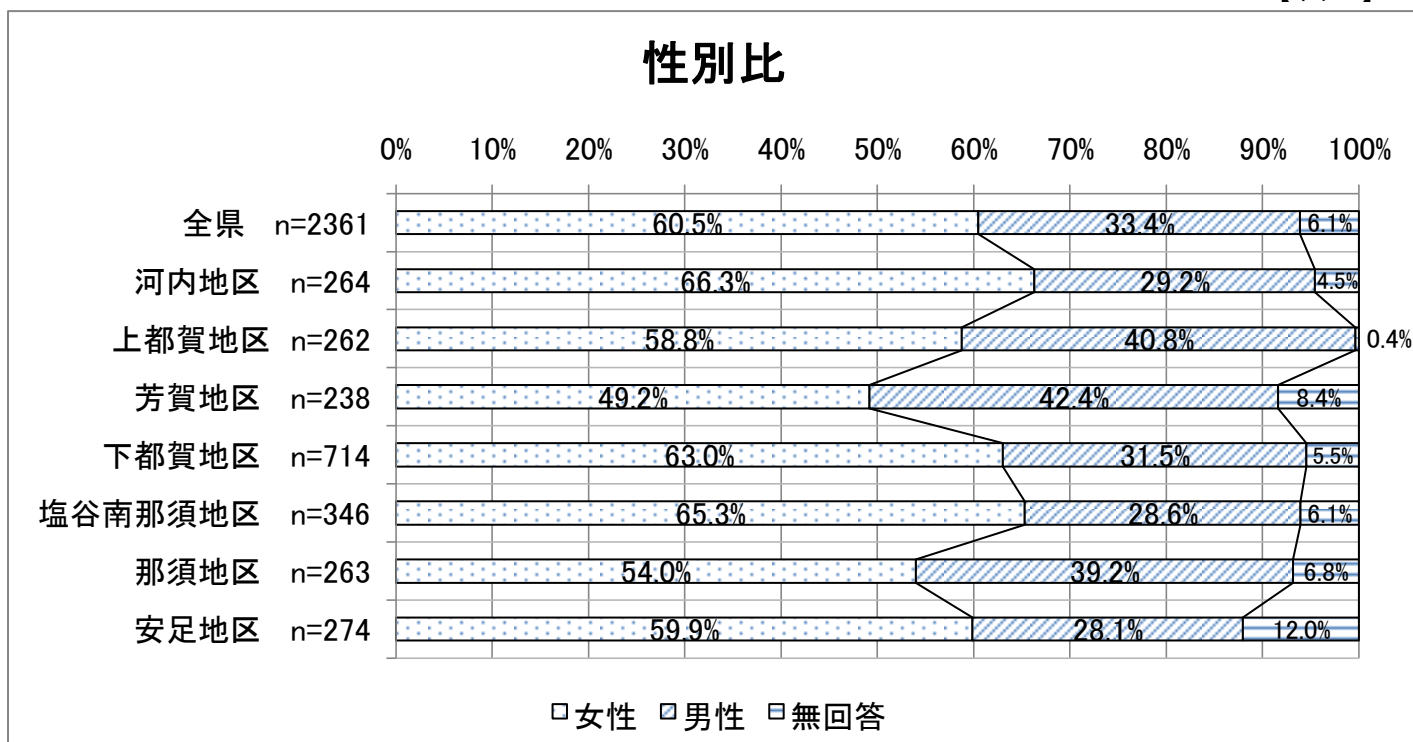
この調査においては、数値をグラフで比較する便宜を図る上で、母数を人数とするデータと回答数とするデータを併用する。母数については、その都度表記を確認されたい。



地区別では、下都賀地区が 714 名と全体の約 30%を占めているが、他の地区は概ね 10~15%の範囲に分布する。

年代別に見ると、上都賀地区では 40 代、安足地区では 70 歳以上が最多となっているが、他の 5 地区では 60 代が最多となっている。また、60 歳未満の占める割合は、上都賀地区が最も多く、那須地区が最も少ない。

【図 2】



性別では、すべての地区において女性が男性の数を上回った。女性の割合が最も少ないのは芳賀地区で、最も多いのが河内地区である。全体では、60%あまりが女性の回答者であった。

(2) 地域課題の認識

問1 あなたの居住する地域の課題と考えられるのは何ですか。あてはまる番号3つに○をつけてください。(n=6,816)

①各地区別の課題認識状況

【表3】

		問1 地域課題の認識															
		防災・防犯	子どもの安全確保	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	郷土芸能の伝承	自治会・子ども会等の運営	住民同士の交流	高齢化	人権問題	環境保護・美化	国際化への対応	消費者問題	男女共同参画	過疎化	市街中心部の空洞化	その他
1	河内地区 n=756	15.7%	11.5%	5.6%	5.0%	3.2%	6.5%	14.3%	19.0%	1.3%	7.0%	0.5%	1.2%	0.8%	3.0%	5.0%	0.3%
2	上都賀地区 n=764	11.8%	13.1%	8.6%	6.7%	2.6%	7.7%	12.7%	16.8%	0.7%	4.2%	0.4%	0.8%	1.3%	5.6%	6.4%	0.7%
3	芳賀地区 n=680	12.2%	9.0%	5.9%	4.6%	2.2%	7.2%	12.8%	18.8%	0.1%	7.4%	1.0%	0.9%	1.8%	7.4%	8.1%	0.7%
4	下都賀地区 n=2,069	13.2%	10.1%	7.2%	5.6%	3.6%	7.5%	13.7%	18.6%	0.6%	6.4%	0.6%	0.9%	1.5%	5.1%	4.4%	1.1%
5	塩谷南那須地区 n=1,005	11.4%	8.1%	6.6%	4.4%	2.4%	4.0%	13.8%	20.5%	0.3%	6.7%	0.6%	1.4%	1.0%	8.3%	10.5%	1.1%
6	那須地区 n=750	13.6%	8.8%	4.7%	3.7%	2.9%	6.1%	11.2%	19.7%	0.8%	7.3%	0.7%	1.5%	1.6%	7.3%	8.7%	1.3%
7	安足地区 n=792	14.9%	12.8%	9.0%	5.4%	2.8%	6.4%	9.3%	17.6%	0.8%	4.5%	1.0%	1.6%	0.8%	5.7%	7.4%	0.0%
全県 n=6,816		13.2%	10.3%	6.9%	5.1%	2.9%	6.4%	12.8%	18.8%	0.6%	6.2%	0.7%	1.1%	1.3%	5.9%	6.8%	0.8%
前回調査 n=7,087		10.7%	12.8%	9.3%	7.2%	4.6%	8.9%	12.1%	15.5%	1.9%	11.3%	1.2%	1.4%	2.6%	—	—	0.6%
増減		2.5%	△2.5%	△2.4%	△2.1%	△1.7%	△2.5%	0.7%	3.3%	△1.3%	△5.1%	△0.5%	△0.3%	△1.3%	—	—	0.2%

ここでいう「居住する地域」とは、概ね小学校区を対象と定義した。栃木社会教育推進コンソーシアム協議会が実施した「地域課題に関する実態調査」(H21)と比較するため、総回答数(n=6,816)に対する割合を示した。

全ての地区で「高齢化」が最多となった。地区によって若干のばらつきは見られるが、「防災・防犯」、「住民同士の交流」、「子どもの安全確保」などが上位に挙げられている。また、各地区における順位を整理したものが、以下の【表4】である。

【表4】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
全県 n=6,816	高齢化	防災・防犯	住民同士の交流	子どもの安全確保	家庭教育支援・子育て支援	市街中心部の空洞化	自治会・子ども会等の運営	環境保護・美化	過疎化	青少年の健全育成	郷土芸能の伝承	男女共同参画	消費者問題	国際化への対応	人権問題
	18.8%	13.2%	12.8%	10.3%	6.9%	6.8%	6.4%	6.2%	5.9%	5.1%	2.9%	1.3%	1.1%	0.7%	0.6%
河内地区 n=756	高齢化	防災・防犯	住民同士の交流	子どもの安全確保	環境保護・美化	自治会・子ども会等の運営	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	市街中心部の空洞化	郷土芸能の伝承	過疎化	人権問題	消費者問題	男女共同参画	国際化への対応
	19.0%	15.7%	14.3%	11.5%	7.0%	6.5%	5.6%	5.0%	5.0%	3.2%	3.0%	1.3%	1.2%	0.8%	0.5%
上都賀地区 n=764	高齢化	子どもの安全確保	住民同士の交流	防災・防犯	家庭教育支援・子育て支援	自治会・子ども会等の運営	青少年の健全育成	市街中心部の空洞化	過疎化	環境保護・美化	郷土芸能の伝承	男女共同参画	消費者問題	人権問題	国際化への対応
	16.8%	13.1%	12.7%	11.8%	8.6%	7.7%	6.7%	6.4%	5.6%	4.2%	2.6%	1.3%	0.8%	0.7%	0.4%
芳賀地区 n=680	高齢化	住民同士の交流	防災・防犯	子どもの安全確保	市街中心部の空洞化	環境保護・美化	過疎化	自治会・子ども会等の運営	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	郷土芸能の伝承	男女共同参画	国際化への対応	消費者問題	人権問題
	18.8%	12.8%	12.2%	9.0%	8.1%	7.4%	7.4%	7.2%	5.9%	4.6%	2.2%	1.8%	1.0%	0.9%	0.1%
下都賀地区 n=2,069	高齢化	住民同士の交流	防災・防犯	子どもの安全確保	自治会・子ども会等の運営	家庭教育支援・子育て支援	環境保護・美化	青少年の健全育成	過疎化	市街中心部の空洞化	郷土芸能の伝承	男女共同参画	消費者問題	人権問題	国際化への対応
	18.6%	13.7%	13.2%	10.1%	7.5%	7.2%	6.4%	5.6%	5.1%	4.4%	3.6%	1.5%	0.9%	0.6%	0.6%
塩谷南那須地区 n=1,065	高齢化	住民同士の交流	防災・防犯	市街中心部の空洞化	過疎化	子どもの安全確保	環境保護・美化	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	自治会・子ども会等の運営	郷土芸能の伝承	消費者問題	男女共同参画	国際化への対応	人権問題
	20.5%	13.8%	11.4%	10.5%	8.3%	8.1%	6.7%	6.6%	4.4%	4.0%	2.4%	1.4%	1.0%	0.6%	0.3%
那須地区 n=750	高齢化	防災・防犯	住民同士の交流	子どもの安全確保	市街中心部の空洞化	環境保護・美化	過疎化	自治会・子ども会等の運営	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	郷土芸能の伝承	男女共同参画	消費者問題	人権問題	国際化への対応
	19.7%	13.6%	11.2%	8.8%	8.7%	7.3%	7.3%	6.1%	4.7%	3.7%	2.9%	1.6%	1.5%	0.8%	0.7%
安足地区 n=792	高齢化	防災・防犯	子どもの安全確保	住民同士の交流	家庭教育支援・子育て支援	市街中心部の空洞化	自治会・子ども会等の運営	過疎化	青少年の健全育成	環境保護・美化	郷土芸能の伝承	消費者問題	国際化への対応	人権問題	男女共同参画
	17.6%	14.9%	12.8%	9.3%	9.0%	7.4%	6.4%	5.7%	5.4%	4.5%	2.8%	1.6%	1.0%	0.8%	0.8%

また、各課題別に順位を整理したものを以下に示した。

【表 5】

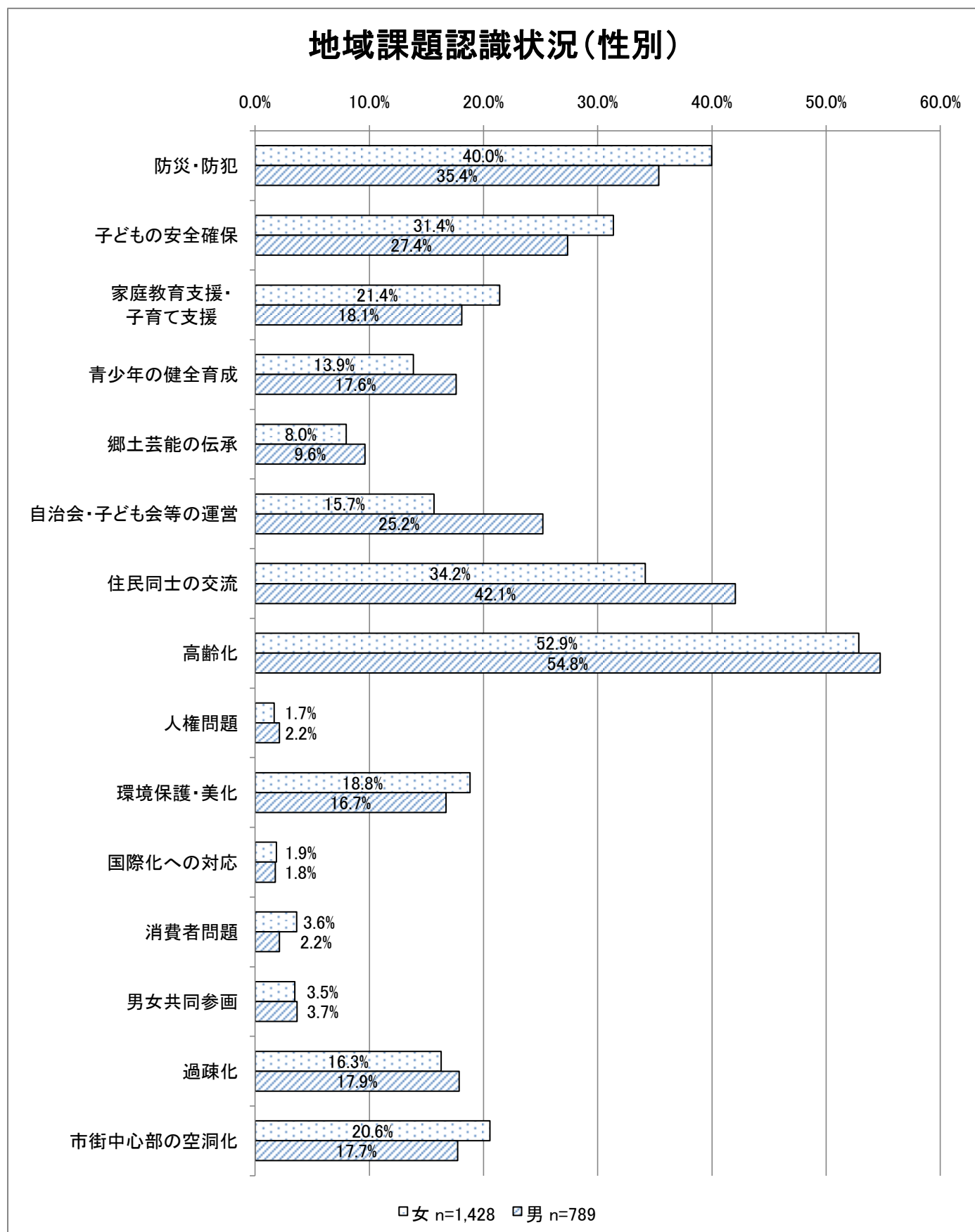
	防災・防犯		子どもの安全確保		家庭教育支援・子育て支援		青少年の健全育成		郷土芸能の伝承	
1	河内地区 n=756	15.7%	上都賀地区 n=764	13.1%	安足地区 n=792	9.0%	上都賀地区 n=764	6.7%	下都賀地区 n=2,069	3.6%
2	安足地区 n=792	14.9%	安足地区 n=792	12.8%	上都賀地区 n=764	8.6%	下都賀地区 n=2,069	5.6%	河内地区 n=756	3.2%
3	那須地区 n=750	13.6%	河内地区 n=756	11.5%	下都賀地区 n=2,069	7.2%	安足地区 n=792	5.4%	那須地区 n=750	2.9%
4	下都賀地区 n=2,069	13.2%	下都賀地区 n=2,069	10.1%	塩谷南那須 地区 n=1,005	6.6%	河内地区 n=756	5.0%	安足地区 n=792	2.8%
5	芳賀地区 n=680	12.2%	芳賀地区 n=680	9.0%	芳賀地区 n=680	5.9%	芳賀地区 n=680	4.6%	上都賀地区 n=764	2.6%
6	上都賀地区 n=764	11.8%	那須地区 n=750	8.8%	河内地区 n=756	5.6%	塩谷南那須 地区 n=1,005	4.4%	塩谷南那須 地区 n=1,005	2.4%
7	塩谷南那須 地区 n=1,005	11.4%	塩谷南那須 地区 n=1,005	8.1%	那須地区 n=750	4.7%	那須地区 n=750	3.7%	芳賀地区 n=680	2.2%

	自治会・子ども会等の運営		住民同士の交流		高齢化		人権問題		環境保護・美化	
1	上都賀地区 n=764	7.7%	河内地区 n=756	14.3%	塩谷南那須 地区 n=1,005	20.5%	河内地区 n=756	1.3%	芳賀地区 n=680	7.4%
2	下都賀地区 n=2,069	7.5%	塩谷南那須 地区 n=1,005	13.8%	那須地区 n=750	19.7%	那須地区 n=750	0.8%	那須地区 n=750	7.3%
3	芳賀地区 n=680	7.2%	下都賀地区 n=2,069	13.7%	河内地区 n=756	19.0%	安足地区 n=792	0.8%	河内地区 n=756	7.0%
4	河内地区 n=756	6.5%	芳賀地区 n=680	12.8%	芳賀地区 n=680	18.8%	上都賀地区 n=764	0.7%	塩谷南那須 地区 n=1,005	6.7%
5	安足地区 n=792	6.4%	上都賀地区 n=764	12.7%	下都賀地区 n=2,069	18.6%	下都賀地区 n=2,069	0.6%	下都賀地区 n=2,069	6.4%
6	那須地区 n=750	6.1%	那須地区 n=750	11.2%	安足地区 n=792	17.6%	塩谷南那須 地区 n=1,005	0.3%	安足地区 n=792	4.5%
7	塩谷南那須 地区 n=1,005	4.0%	安足地区 n=792	9.3%	上都賀地区 n=764	16.8%	芳賀地区 n=680	0.1%	上都賀地区 n=764	4.2%

	国際化への対応		消費者問題		男女共同参画		過疎化		市街中心部の空洞化	
1	芳賀地区 n=680	1.0%	安足地区 n=792	1.6%	芳賀地区 n=680	1.8%	塩谷南那須 地区 n=1,005	8.3%	塩谷南那須 地区 n=1,005	10.5%
2	安足地区 n=792	1.0%	那須地区 n=750	1.5%	那須地区 n=750	1.6%	芳賀地区 n=680	7.4%	那須地区 n=750	8.7%
3	那須地区 n=750	0.7%	塩谷南那須 地区 n=1,005	1.4%	下都賀地区 n=2,069	1.5%	那須地区 n=750	7.3%	芳賀地区 n=680	8.1%
4	塩谷南那須 地区 n=1,005	0.6%	河内地区 n=756	1.2%	上都賀地区 n=764	1.3%	安足地区 n=792	5.7%	安足地区 n=792	7.4%
5	下都賀地区 n=2,069	0.6%	下都賀地区 n=2,069	0.9%	塩谷南那須 地区 n=1,005	1.0%	上都賀地区 n=764	5.6%	上都賀地区 n=764	6.4%
6	河内地区 n=756	0.5%	芳賀地区 n=680	0.9%	河内地区 n=756	0.8%	下都賀地区 n=2,069	5.1%	河内地区 n=756	5.0%
7	上都賀地区 n=764	0.4%	上都賀地区 n=764	0.8%	安足地区 n=792	0.8%	河内地区 n=756	3.0%	下都賀地区 n=2,069	4.4%

5 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、「子どもの安全確保」に関しては、上都賀地区と安足地区、「住民同士の交流」で河内地区と安足地区、「過疎化」で塩谷南那須地区と河内地区、「市街中心部の空洞化」では塩谷南那須地区と河内地区、塩谷南那須地区と下都賀地区との間に明確な差異を見出すことができる。

また、各課題の上位 3 地区を見ていくと、最も少なかったのは上都賀地区の 4 項目、最も多かったのが那須地区の 10 項目であり、他の地区は 5～7 項目であった。



男女の課題認識の違いを人数比で比較した。5ポイント以上の開きがあるものを、明確な差異として捉えた場合、「自治会・子ども会等の運営」で9.5ポイント、「住民同士の交流」で7.9ポイント、男性が女性を上回った。女性は「防災・防犯」で男性を4.6ポイント上回ったが、5ポイント以上男性を上回るものは皆無であった。

	20代 n=85	30代 n=233	40代 n=413	50代 n=413	60代 n=661	70歳以上 n=422
防災・防犯	38.8%	39.9%	38.0%	37.3%	37.7%	39.6%
子どもの安全確保	40.0%	48.1%	40.4%	27.8%	23.9%	19.2%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	36.5%	29.1%	21.8%	13.3%	9.7%
青少年の健全育成	18.8%	15.0%	18.9%	20.3%	12.9%	9.5%
郷土芸能の伝承	10.6%	5.6%	8.0%	8.2%	9.7%	8.8%
自治会・子ども会等の運営	11.8%	25.8%	28.1%	22.8%	13.9%	12.6%
住民同士の交流	32.9%	27.9%	33.7%	36.1%	42.5%	38.4%
高齢化	42.4%	30.0%	39.0%	53.3%	64.0%	67.5%
人権問題	1.2%	2.1%	1.7%	1.2%	1.4%	3.3%
環境保護・美化	15.3%	11.6%	13.6%	19.4%	21.8%	19.4%
国際化への対応	7.1%	4.3%	3.1%	1.0%	0.6%	0.9%
消費者問題	3.5%	2.1%	1.2%	2.2%	2.4%	7.3%
男女共同参画	3.5%	2.1%	2.2%	3.4%	3.6%	6.2%
過疎化	24.7%	18.0%	15.0%	16.9%	16.6%	17.3%
市街中心部の空洞化	12.9%	12.0%	15.5%	18.9%	22.4%	25.4%

世代ごとに見られる課題認識の違いを人数比で示した。全ての世代において「高齢化」、「防災・防犯」、「住民同士の交流」、「子どもの安全確保」が高い割合を示すことが見て取れる。

また、「防災・防犯」や「過疎化」等においては、数値や順位の上で世代間に明確な差が見られないのに対して、「子どもの安全確保」、「家庭教育支援・子育て支援」、「国際化への対応」では20代～40代で高くなっており、50代～70歳以上では「高齢化」「住民同士の交流」、「市街中心部の空洞化」、「環境保護・美化」が高くなっているというように、世代間で課題認識に明確な差が生じるものも見られる。

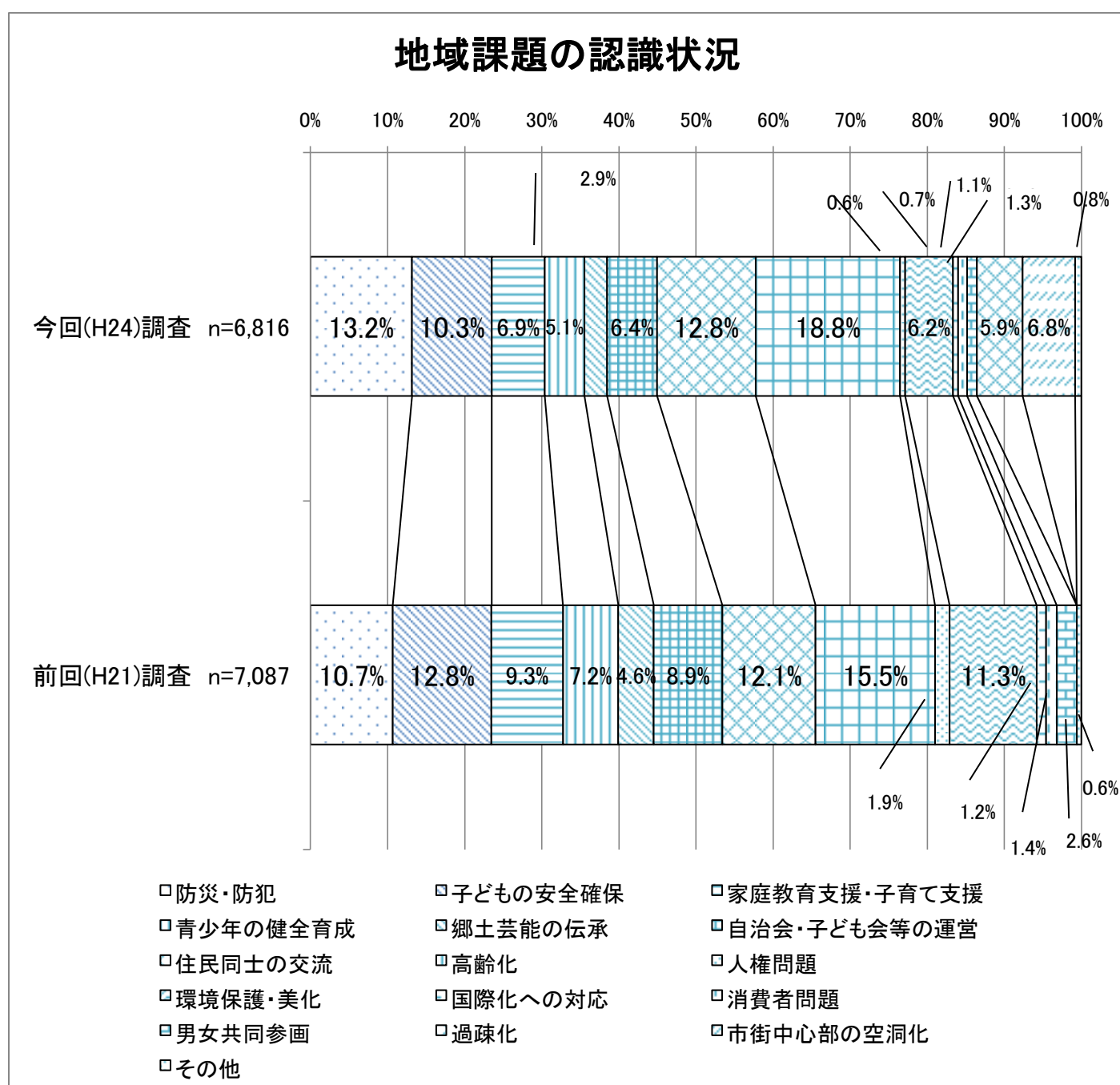
④ 前回調査との比較

前回調査との比較を行うため、総回答数に対する割合で表した。

今回の調査では、新たに「過疎化」、「市街中心部の空洞化」という選択肢を増やしたため、前回の調査と比較し、ほとんどの項目で割合が減少した。その中で、割合を増加させたのは「高齢化」(+3.3ポイント)、「防災・防犯」(+2.5ポイント)、「住民同士の交流」(+0.7ポイント)の3つであり、これらが今回調査での上位を占めた。「高齢化」、「住民同士の交流」については、順位の変動はなかったが、「防災・防犯」については、前回調査の5位から2位に上昇したことが特筆される。これは、東日本大震災を受けて、県民の防災に関する意識が高まったことを反映していると考えられる。

また、-5.1ポイントと今回最も割合を低下させたのは、「環境保護・美化」であり、順位も4位から8位に下落した。

【図 8】

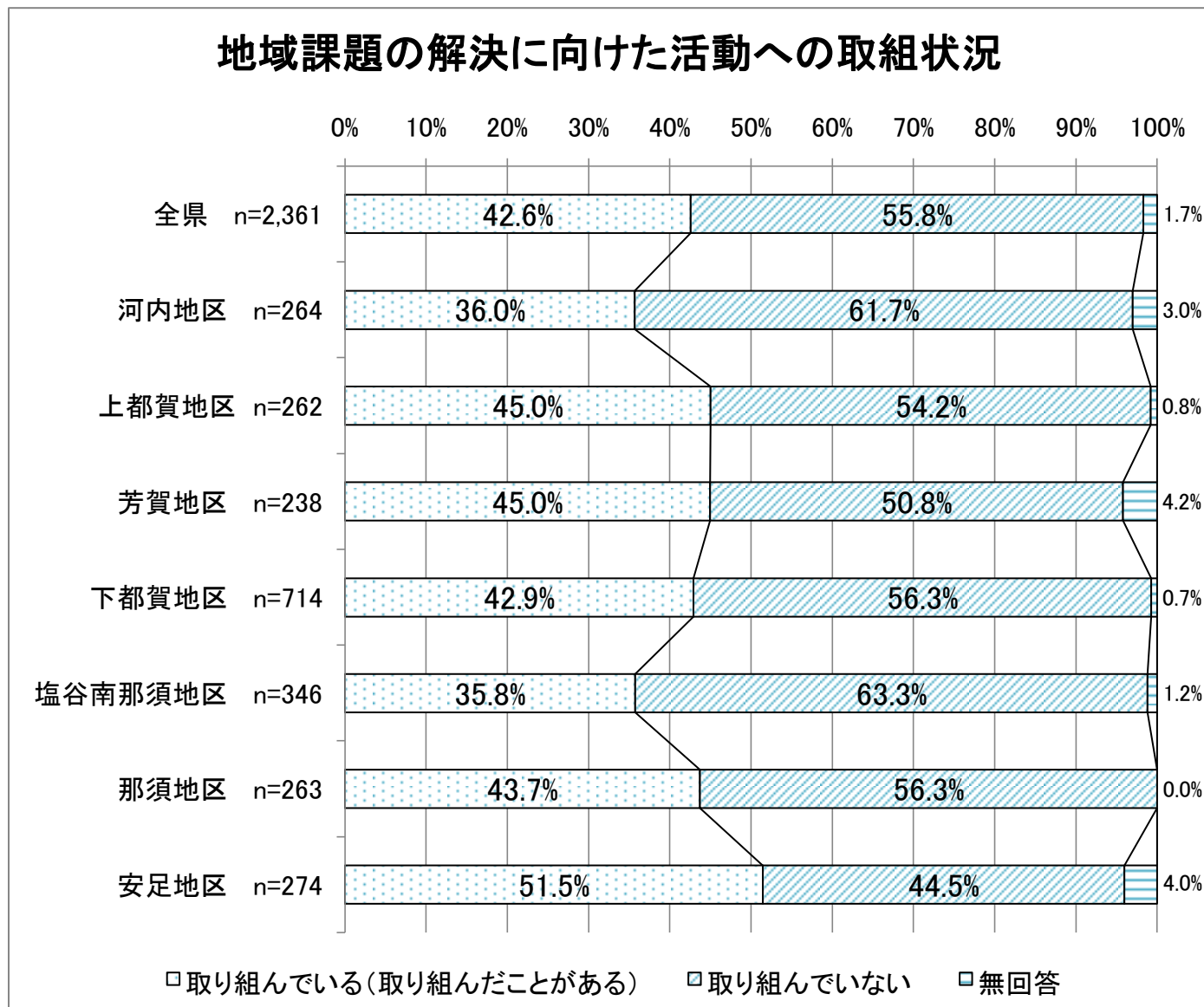


(3) 地域課題の解決に向けた取組

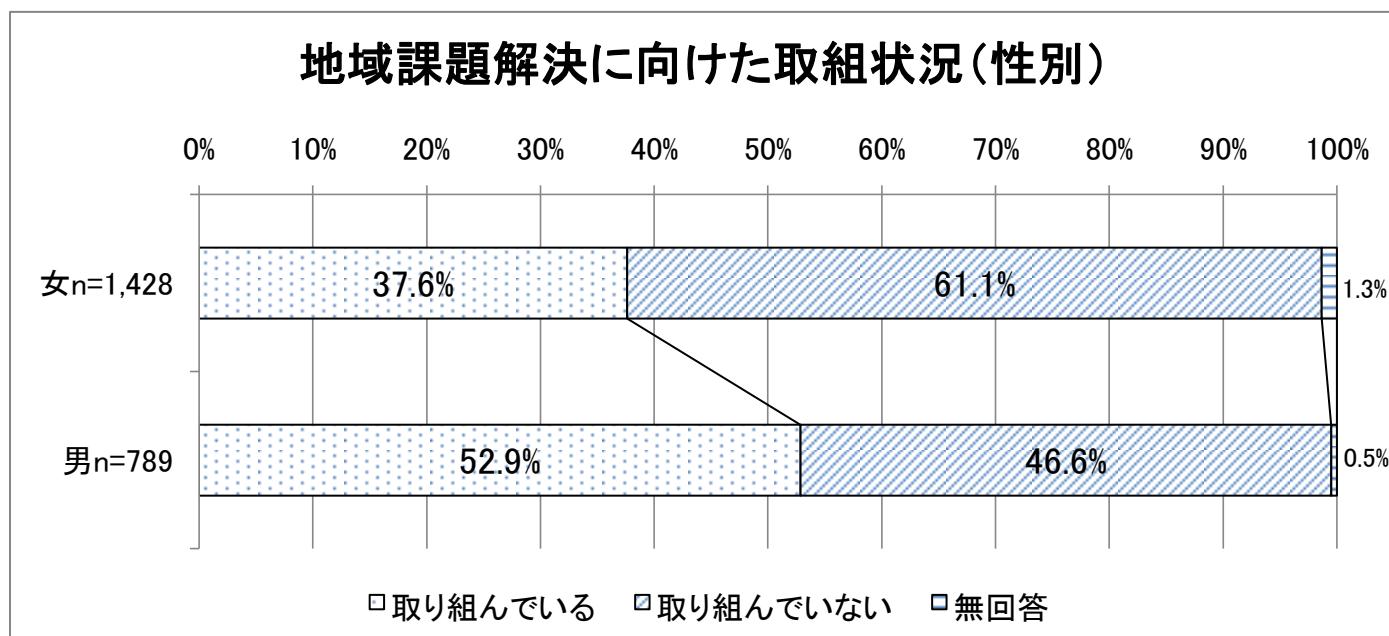
問2 現在、あなたは地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。あてはまる番号に○をつけてください。(n=2,361)

① 各地区別の取組状況

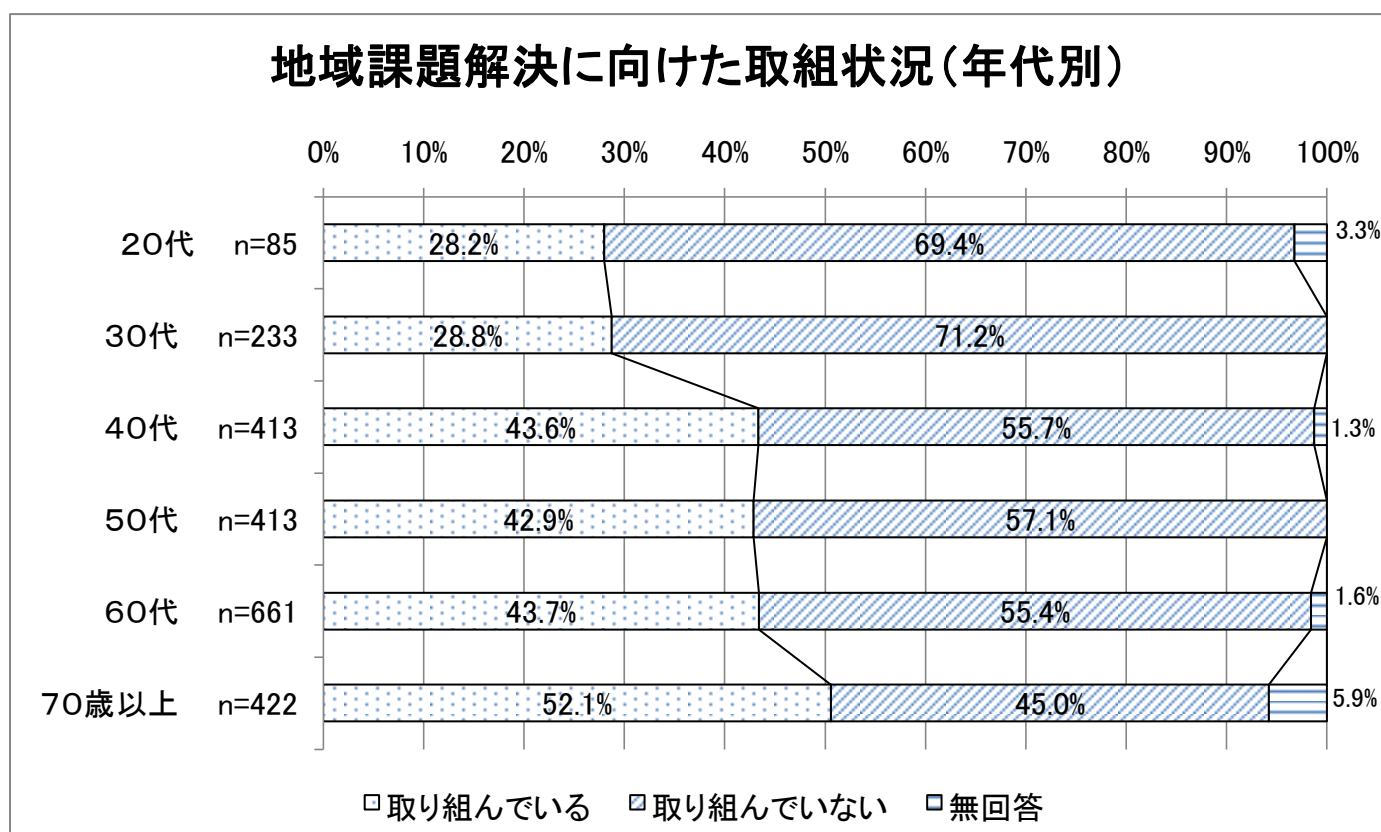
【図 9】



県全体では、過去も含め、4割を超える人々が地域課題の解決に向けた活動に取り組んだことがあると回答した。地区ごとに見ると、活動経験を有する人の割合が30%以上40%未満の地区が2地区、40%以上50%未満が4地区、半数を超える地区も1つ確認できた。



地域課題の解決に向けた活動には、男性の 52.9%と半数以上が取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）と回答した。一方、女性は 37.6%で、その割合は男性に比べて約 15 ポイント低い状況である。



地域課題解決への取組状況を年代別に見ると、20代と30代では概ね 30%弱、40代から60代では 40%代の前半で推移しており、70歳以上になると半数以上が何らかの活動に取り組んだ経験を有することがわかる。また、40代と70代で、取り組んだ経験が急増することがわかる。

(4) 具体的な取組の内容

問3 問2で「取り組んでいる（または過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。現在、あなたは地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（n=1,006）

① 地区別の取組内容

【表 12】

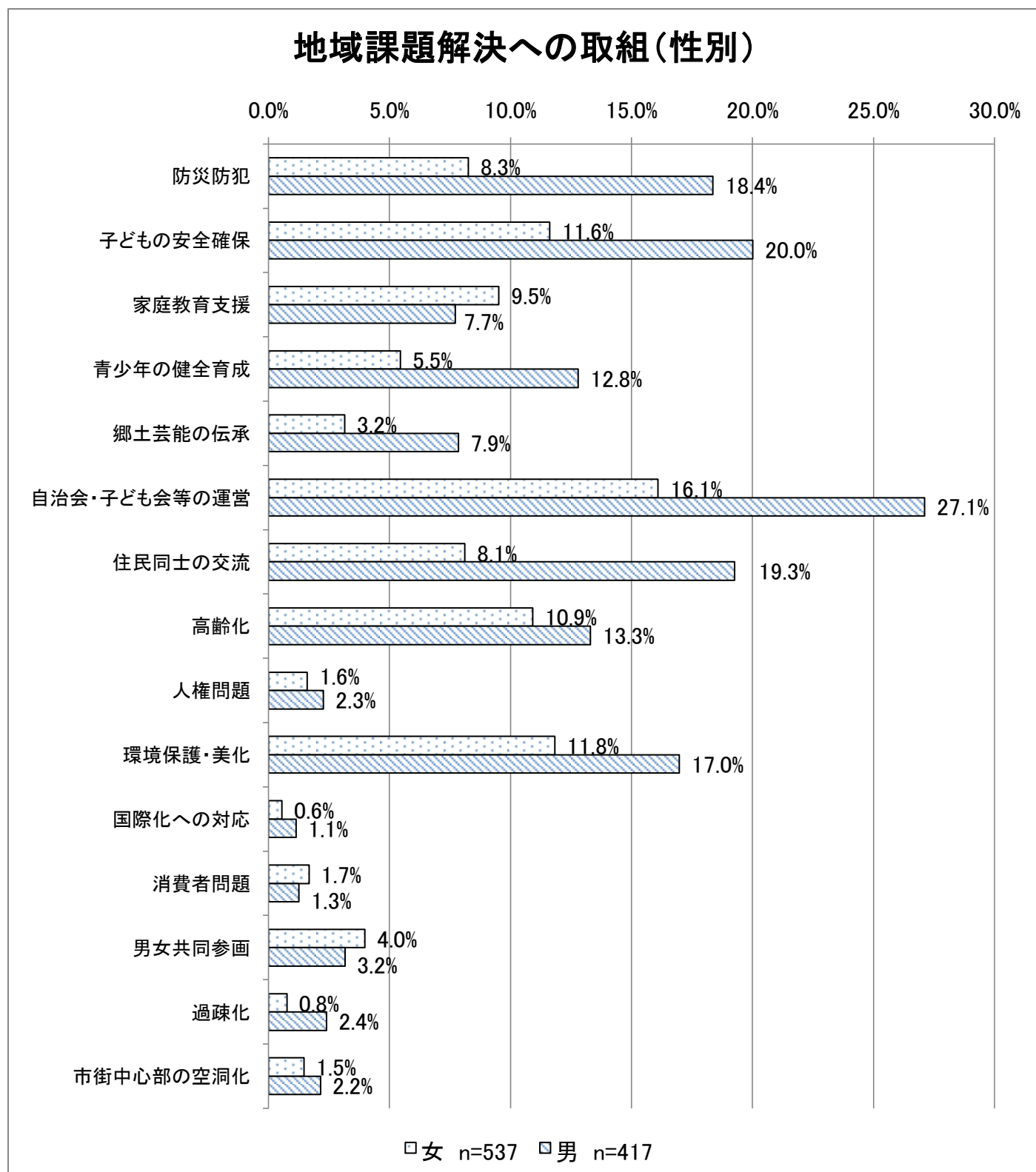
	防災・防犯	子どもの安全確保	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	郷土芸能の伝承	自治会・子ども会等の運営	住民同士の交流	高齢化	人権問題	環境保護・美化	国際化への対応	消費者問題	男女共同参画	過疎化	市街中心部の空洞化	その他
河内地区 n=95	27.4%	33.7%	21.1%	16.8%	8.4%	50.5%	28.4%	30.5%	5.3%	31.6%	3.2%	3.2%	6.3%	1.1%	3.2%	0.0%
上都賀地区 n=118	22.0%	40.7%	28.0%	13.6%	10.2%	41.5%	27.1%	22.0%	5.9%	25.4%	1.7%	3.4%	5.9%	0.0%	3.4%	0.8%
芳賀地区 n=107	29.9%	37.4%	21.5%	15.0%	12.1%	47.7%	37.4%	26.2%	1.9%	43.9%	0.0%	1.9%	8.4%	3.7%	0.9%	0.9%
下都賀地区 n=306	29.7%	32.7%	20.3%	20.6%	10.1%	45.8%	26.1%	30.7%	4.2%	29.1%	3.9%	4.9%	13.1%	4.6%	3.6%	2.0%
塩谷南那須地区 n=124	22.6%	29.8%	21.8%	24.2%	14.5%	35.5%	33.1%	29.8%	4.0%	36.3%	0.8%	4.8%	9.7%	5.6%	5.6%	4.8%
那須地区 n=115	31.3%	32.2%	17.4%	17.4%	17.4%	57.4%	34.8%	28.7%	0.9%	37.4%	1.7%	3.5%	6.1%	4.3%	7.8%	3.5%
安足地区 n=141	34.8%	34.0%	13.5%	19.1%	5.7%	44.7%	22.7%	22.7%	7.1%	27.0%	0.7%	3.5%	5.7%	1.4%	4.3%	0.0%
全県 n=1,006	28.6%	34.0%	20.3%	18.7%	10.9%	45.8%	29.0%	27.7%	4.3%	32.0%	2.1%	3.9%	8.8%	3.3%	4.1%	1.8%

実際に地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験を持つ1,006名に対し、その内容について質問を行った。

現状では、塩谷南那須地区以外の全ての地区において、「自治会・子ども会等の運営」が最も多くなっており、県全体としても最上位に位置づけられる。また、「子どもの安全確保」、「環境保護・美化」がそれに次いで多くなっている。

一方、安足地区では「防災・防犯」が2番目に多くなっているなど、現状の課題認識に対していち早く取り組んでいる様子も一部には見られるが、今回の調査で上位となった「高齢化」や「住民同士の交流」等の問題も含め、課題としての意識は持ちつつも、解決に向けた具体的な取組は未だ十分に行われていない状況もうかがわれる。

個別に見ると、「家庭教育支援・子育て支援」では、県平均が20.3%、最も多い地区で28.0%、「郷土芸能の伝承」についても、県平均が10.9%、最も多い地区で17.4%であるのに対して、最も少ない地区ではそれぞれ13.5%と5.7%にとどまるなど、項目によっては地区間で取組状況に大きな差のあるものも見られる。



地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいると回答した中で、性別の明らかな 954 名の活動内容を集計した。その中では、「家庭教育支援・子育て支援」、「消費者問題」、「男女共同参画」などでわずかに女性が上回ったが、その他の全ての項目で男性が上回る結果となった。特に、「防災・防犯」、「自治会・子ども会等の運営」、「住民同士の交流」では、いずれも 10 ポイント以上、女性を上回っている。

③年代別に見た取組状況

【表 14】

	20代 n=24	30代 n=67	40代 n=180	50代 n=177	60代 n=289	70歳以上 n=220
防災防犯	4.7%	5.6%	11.9%	11.4%	12.7%	15.9%
子どもの安全確保	5.9%	10.7%	21.3%	14.5%	12.1%	16.1%
家庭教育支援・子育て支援	1.2%	8.6%	11.6%	11.9%	7.9%	6.9%
青少年の健全育成	4.7%	4.3%	10.4%	9.0%	7.9%	8.1%
郷土芸能の伝承	4.7%	1.3%	4.1%	4.8%	5.4%	6.6%
自治会・子ども会等の運営	5.9%	14.2%	25.9%	23.0%	19.7%	17.8%
住民同士の交流	5.9%	3.4%	7.0%	11.1%	16.8%	16.6%
高齢化	2.4%	0.9%	2.4%	4.6%	18.0%	26.1%
人権問題	1.2%	0.0%	1.5%	2.2%	2.4%	2.4%
環境保護・美化	14.1%	8.2%	10.4%	13.3%	15.1%	17.8%
国際化への対応	1.2%	0.0%	0.5%	1.7%	0.5%	0.9%
消費者問題	1.2%	0.0%	0.5%	0.7%	1.8%	4.0%
男女共同参画	0.0%	0.0%	2.2%	3.1%	5.6%	5.9%
過疎化	0.0%	0.4%	0.2%	0.7%	2.6%	2.1%
市街中心部の空洞化	2.4%	0.0%	1.7%	0.7%	2.3%	2.8%

地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいると回答した中で、年代の明らかな 957 名の活動内容を集計した。

20代で「環境保護・美化」、70歳以上では「高齢化」が最も多くなっているが、それ以外の年代では「自治会・子ども会等の運営」が最も高くなっている。

また、各テーマへの取組を見てみると、「自治会・子ども会等の運営」や「子どもの安全確保」では40代になると、それ以前の年代と比較して10ポイント以上上昇するとともに、他の活動への取組も増えることが注目される。

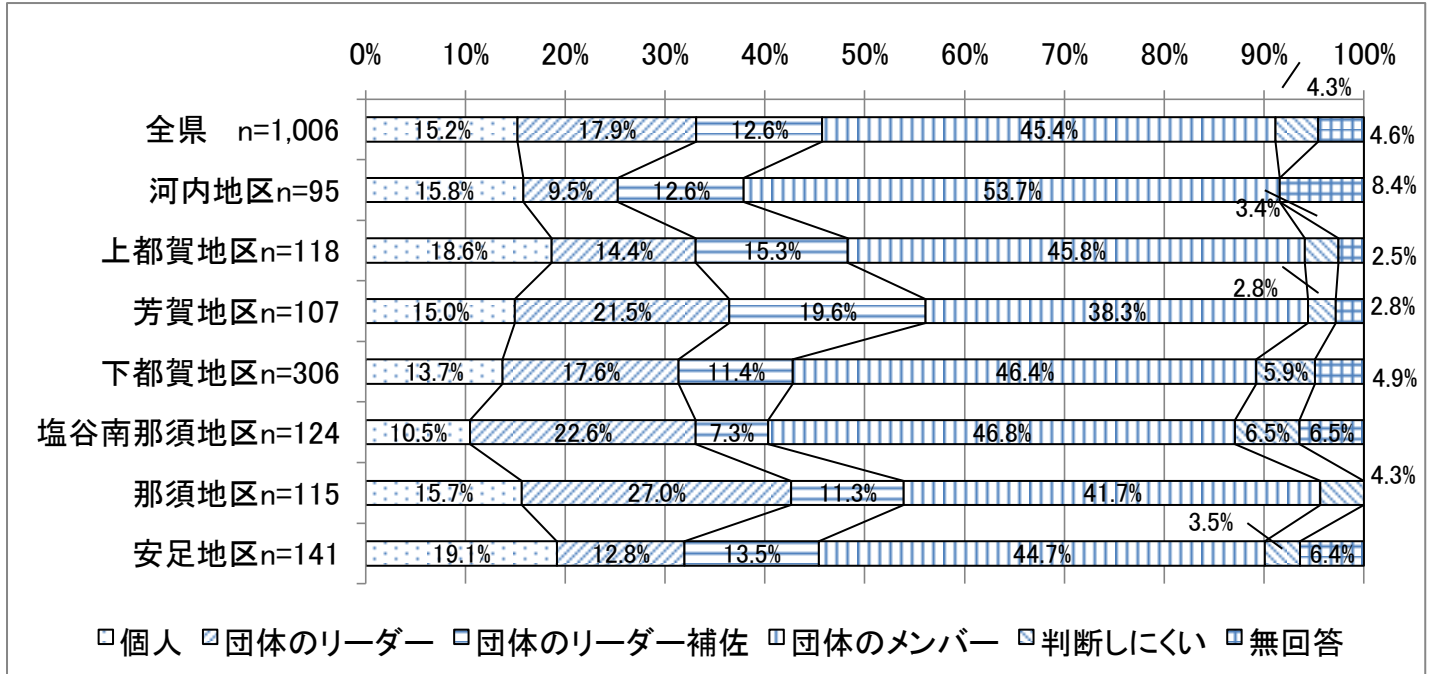
また、70歳以上になると、「家庭教育支援・子育て支援」、「自治会・子ども会等の運営」、「住民同士の交流」、「過疎化」などの項目でわずかに減少するが、それ以外の10項目では割合が増加する。特に「高齢化」への取組が8.1ポイント急増しており、それが【図 11】で見たような70歳以上で地域活動に取り組む人が増える要因と考えられる。

(5) 活動に取り組んだ際の立場

問4 問2で「取り組んでいる（または過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。活動にはどのような立場で取り組まれています（した）か。もっともよくあてはまる番号1つに○をつけてください。（n=1,006）

① 地区別の状況

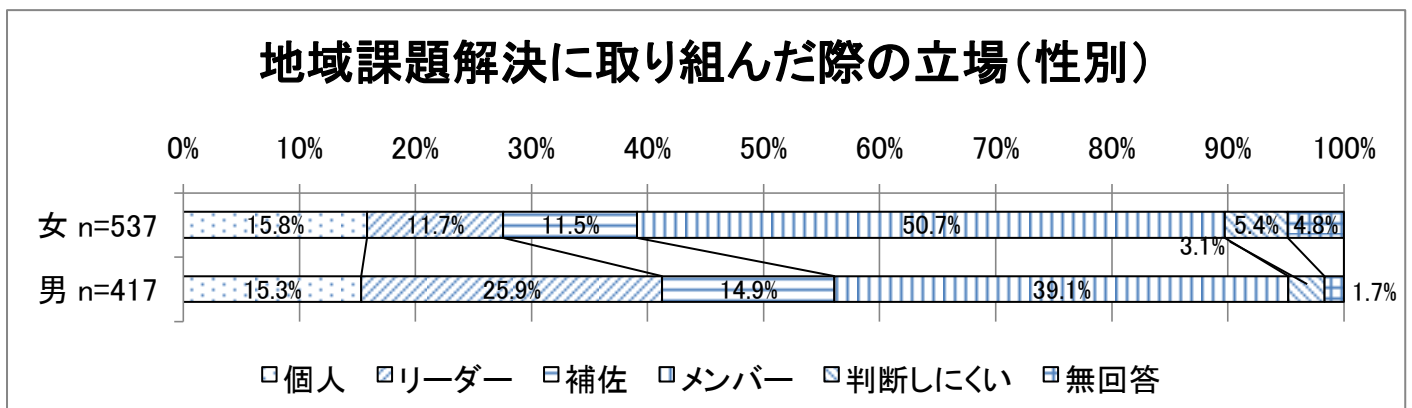
【図 15】



リーダーとしての活動経験を持つ割合は、最も多い地区で 27.0%、最も少ない地区では 9.5%と 3 倍近くの差がある。また、個人での活動についても、最も多い地区で 19.1%、最も少ない地区で 10.5%と 2 倍近くの開きが見られた。個人での活動は、全ての地区において 20%以下にとどまるなど、地域課題解決に向けた活動は、何らかの団体やグループに所属して行われることが多いことがわかる。

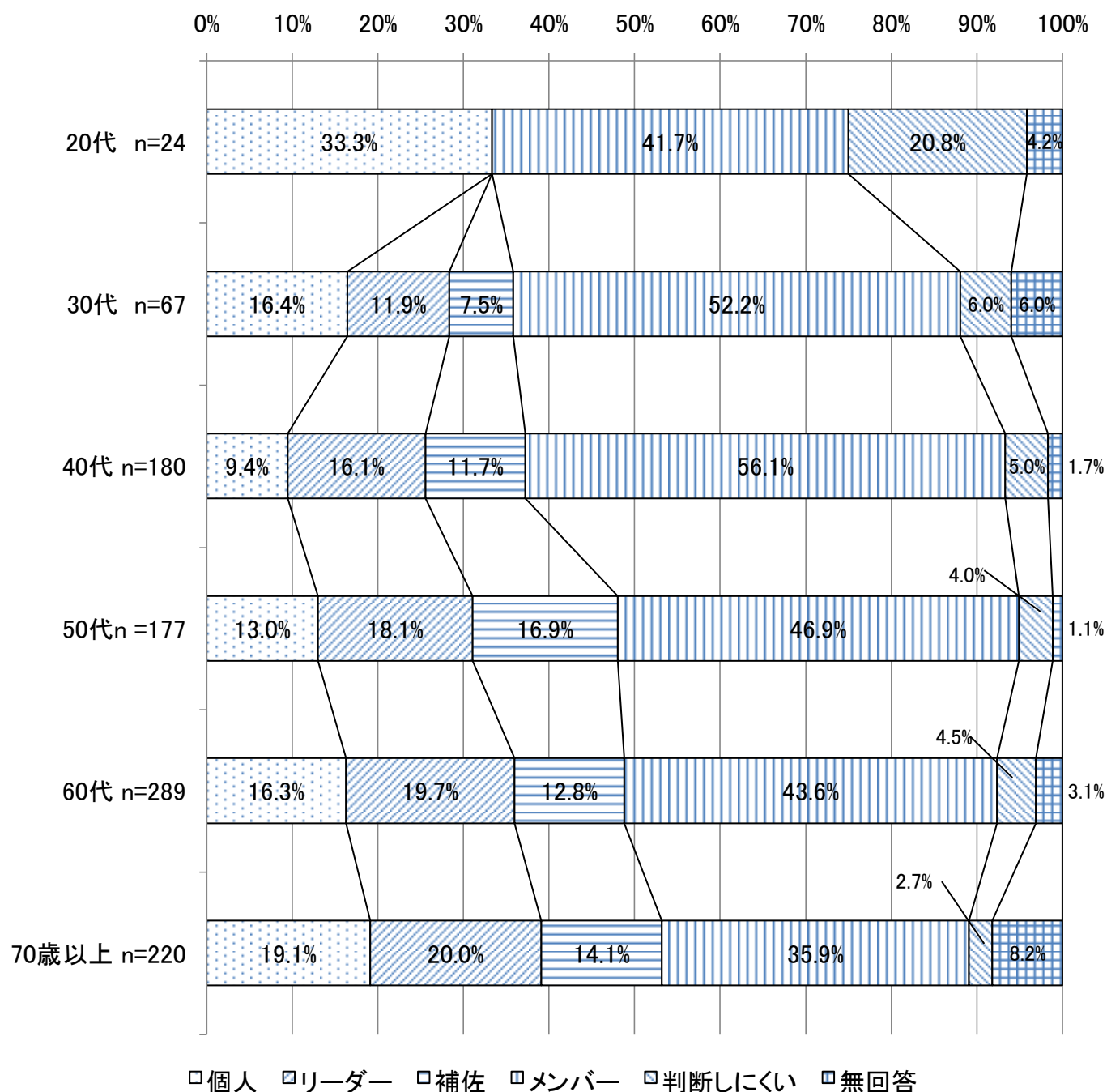
② 性別に見た状況

【図 16】



個人で活動する割合については、男女間にほとんど差はない。また、団体やグループにおいて補佐的な立場を務める割合についても大きな差は見られない。一方、リーダー経験の有無では男性が女性を 14.2 ポイント上回り、役職につかないメンバーとして活動する割合では女性が男性を約 11.6 ポイント上回る結果となった。

地域課題解決に取り組んだ際の立場(年代)



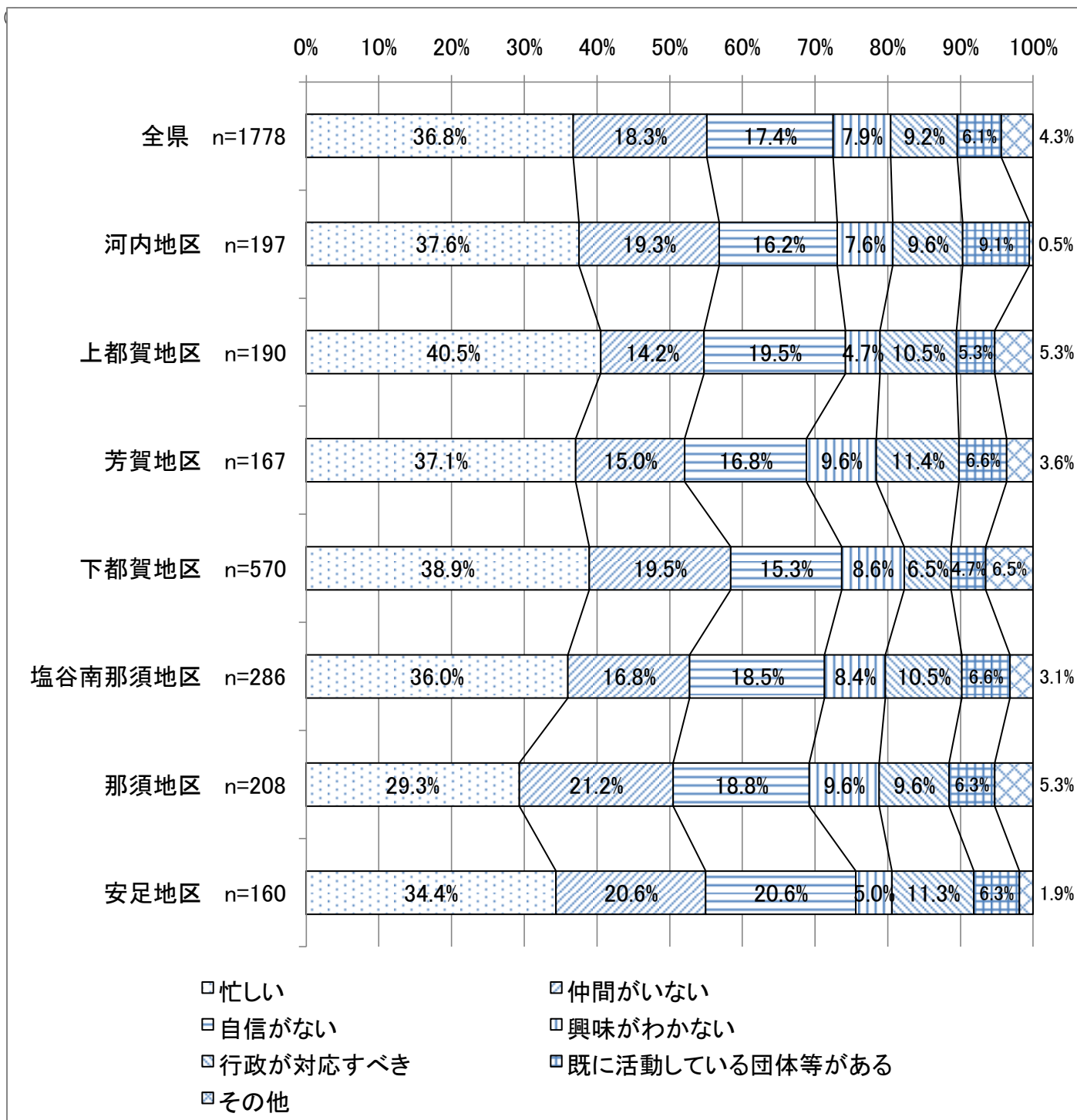
個人で活動を行っている割合は 40 代で最も少なく、40 代を中心に年代が離れるほど個人で活動する割合が多くなっている。40 代では団体やグループに属しての活動が最も多くなっていると考えられる。

個人で活動を行う割合は 20 代で最も高くなっており、20 代で地域課題の解決に向けた活動に取り組む人の 3 人に 1 人は個人で活動を行っている。また、20 代ではリーダーや補佐の経験を有する人はいない。

リーダーの経験を有する人の割合は年代が上がるごとに多くなっているが、補佐的な役割は 50 代、メンバーは 40 代にピークがある。

(6) 地域活動に取り組んでいない理由

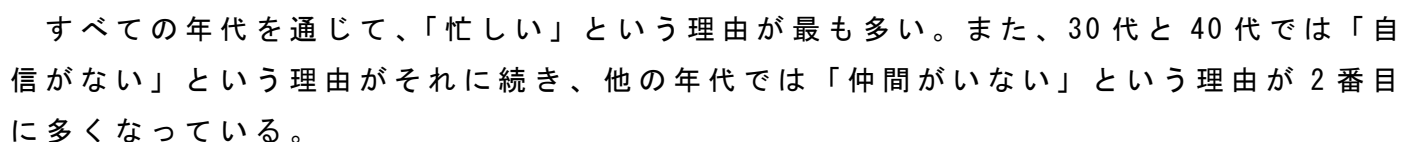
問5 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。(n=1,778)



地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験がないと回答した 1,317 名から、のべ 1,778 の回答を得た。すべての地区で「忙しい」という理由が最も多くなっている。

また、「仲間がいない」という理由は河内・下都賀・那須の 3 つの地区で、「自信がない」という理由は上都賀・芳賀・塩谷南那須の 3 つの地区でそれぞれ 2 番目に多くっており、安足地区では同数になるなど拮抗しているが、県全体では、「仲間がいない」という理由がわずかに多かった。

17

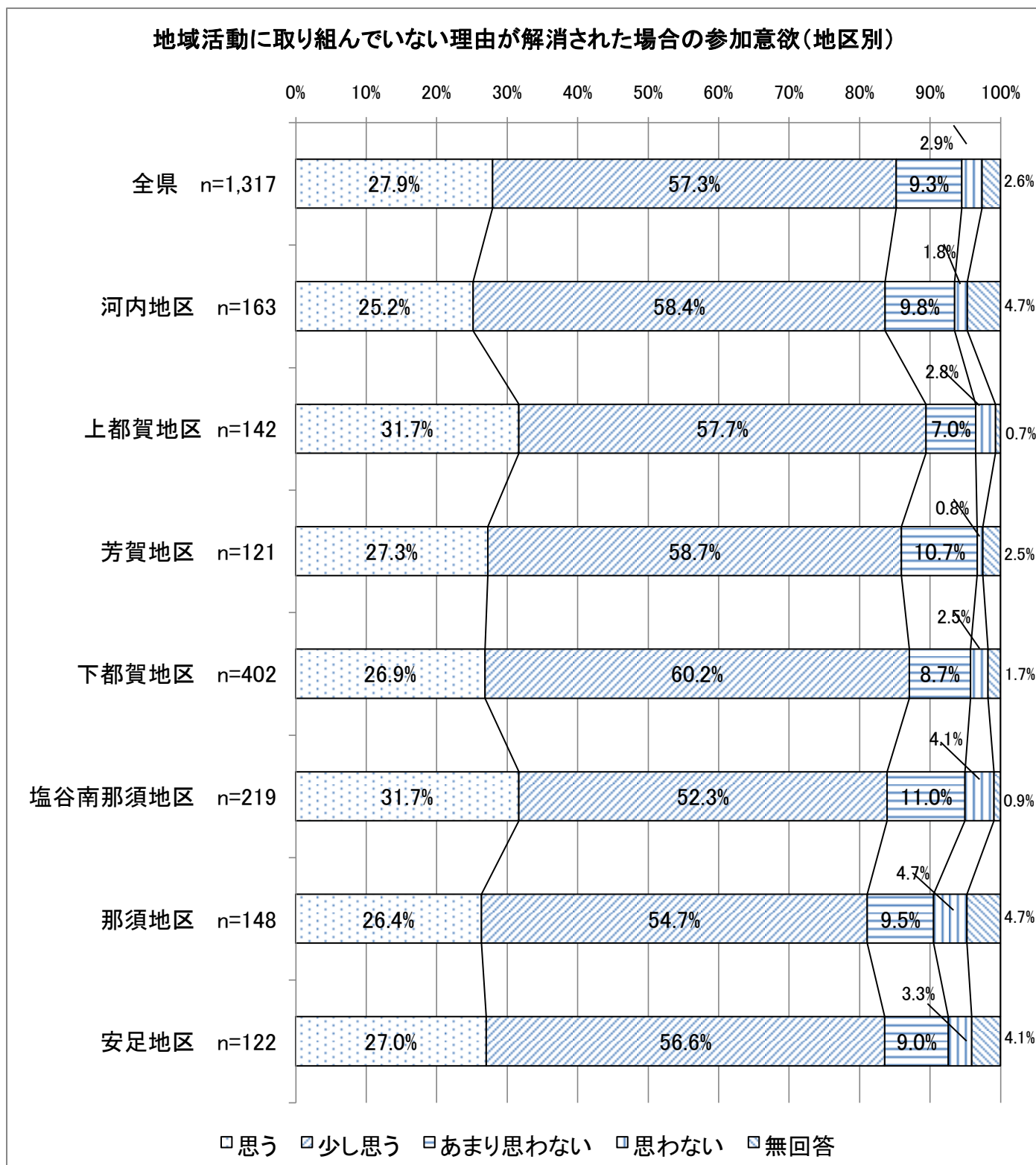


(7) 取り組まない理由が解消された場合の参加意欲

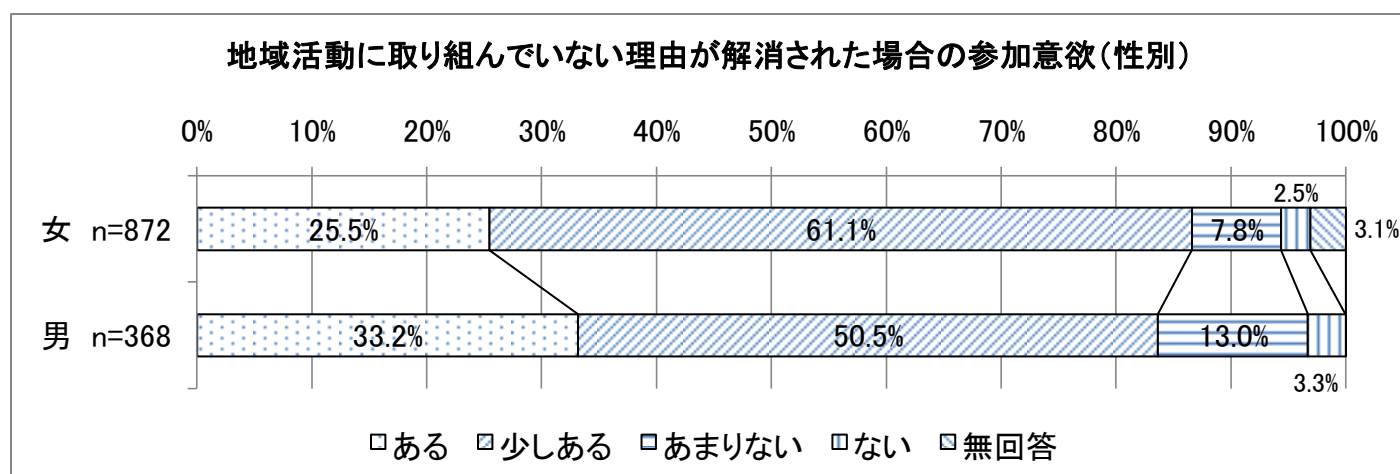
問 6 問 2 で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由が解消された場合、地域課題の解決に向けた活動に取り組もうと思いますか
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。(n=1,317)

① 地区別の状況

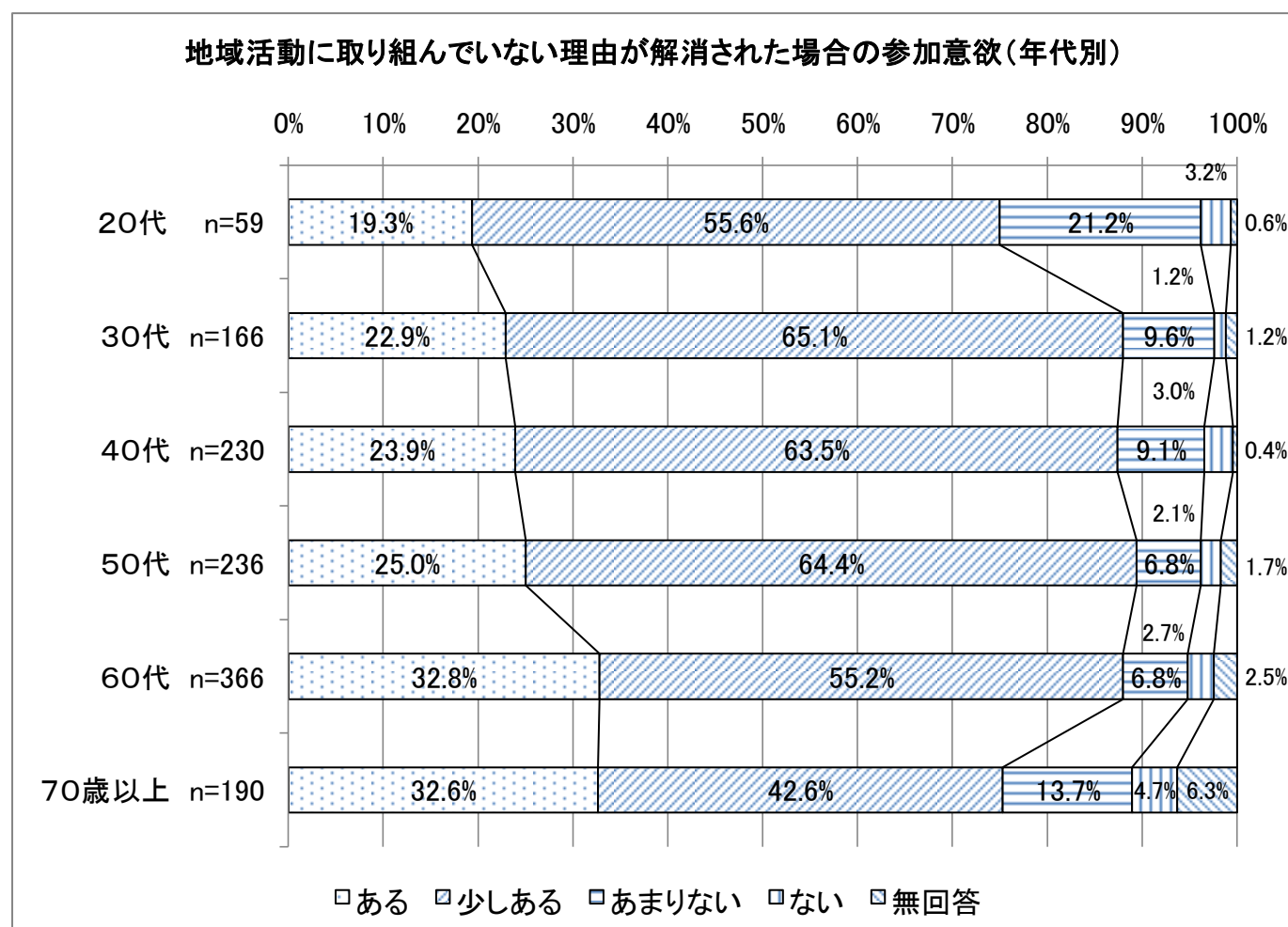
【図 21】



いずれも、「ある」が 30%前後、「少しある」が 60%前後であり、両者の合計が 80～90%の範囲に収まるなど、ほぼ同様の傾向を示し、地区間における明確な差異は認められない。



「ある」と積極的な意欲を示す回答は、男性が女性より 7.7 ポイント、「少しある」との回答では女性が男性より 10.6 ポイント多く、両者の合計では女性が男性を 2.9 ポイント上回った。



年代が上がるにつれ、「ある」と積極的に参加する意欲を示す割合が増える傾向が見られる。30代～60代の各年代では「ある」と「少しある」の合計が 80%を超えているが、20代と 70代では、80%に満たない。

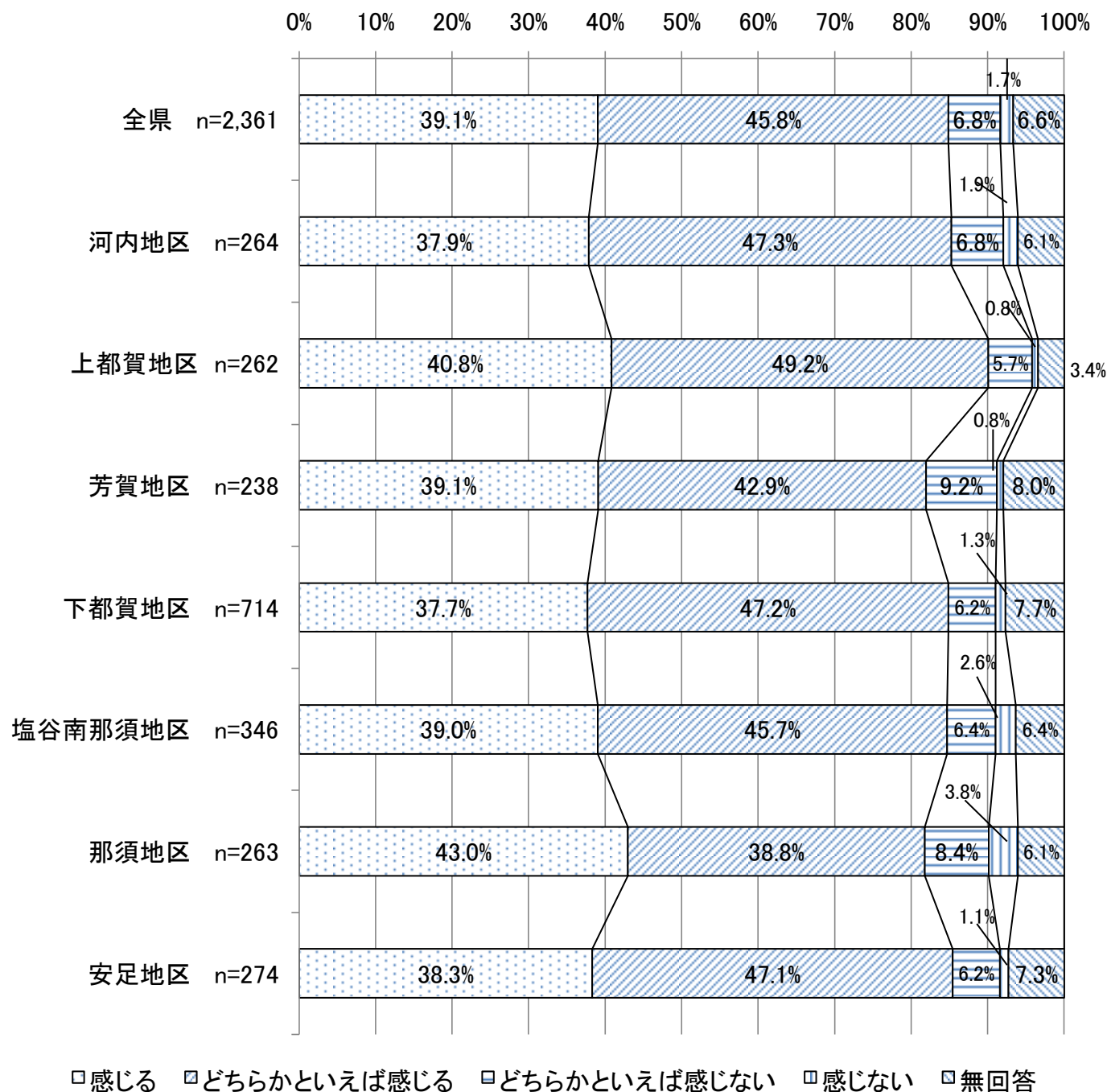
(8) 地域課題に関する学習機会の必要性

問 7 地域課題に関して学習する機会の必要性を感じますか。もっともよくあてはまる番号 1 つに○をつけてください。(n=2,361)

① 地区別の状況

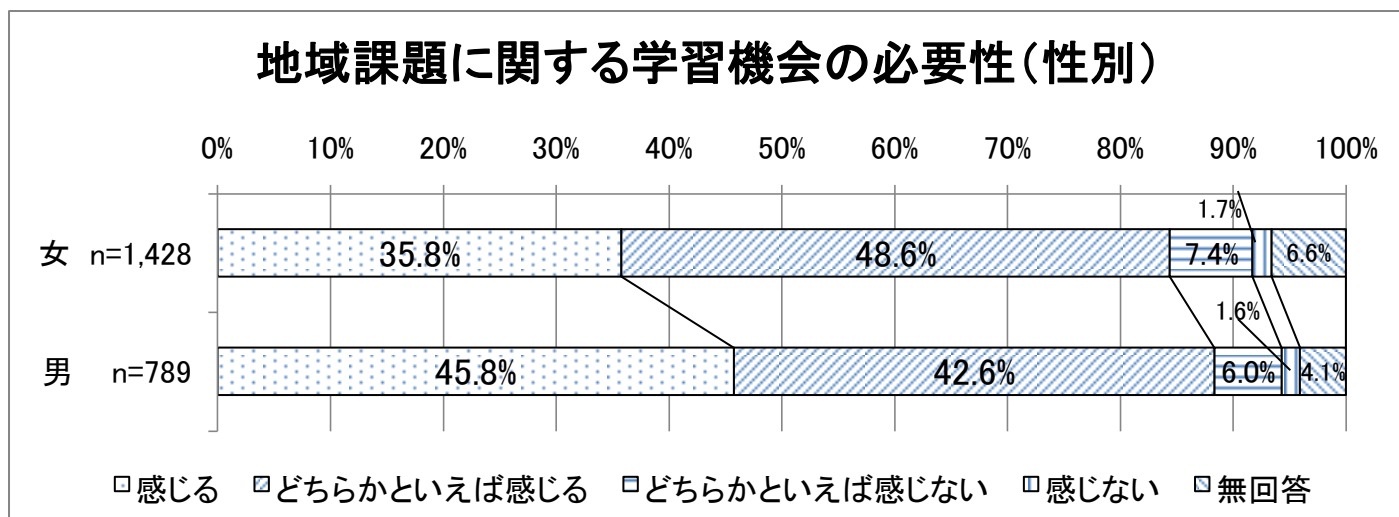
【図 24】

地域課題に関する学習機会の必要性(地区別)

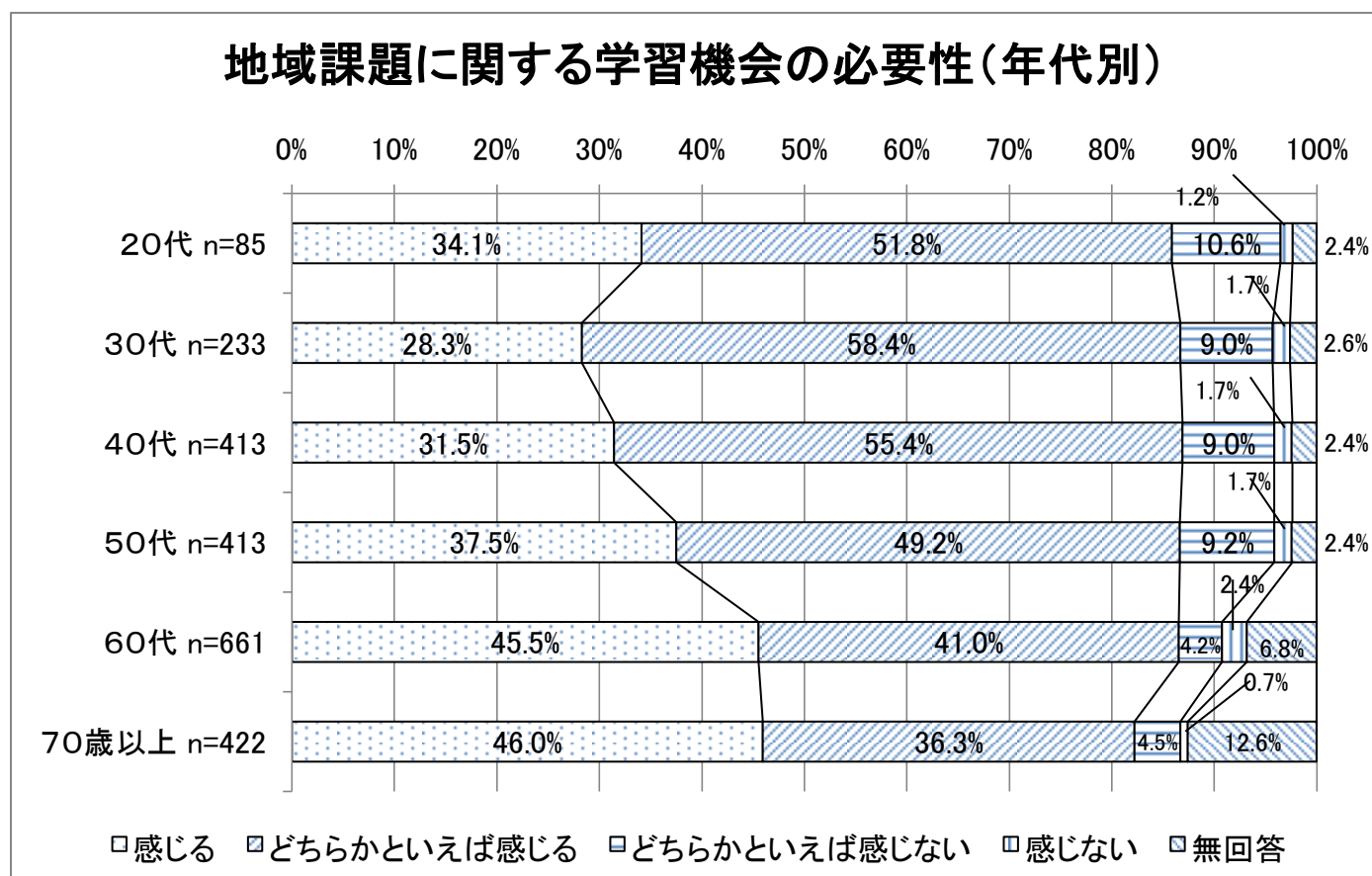


いずれの地区も「感じる」と「どちらかといえば感じる」の合計が 80～90%となっており、地区間に特別な差異は見られない。

県全体でも、「感じる」、「どちらかといえば感じる」の合計は 84.9%となっており、地域課題に関する学習機会を求めるニーズは全般に高いと判断できる。



「感じる」、「どちらかといえば感じる」を合計すると男女ともに 80%を超えている。合計では男性が女性より 4.0 ポイント多いが、「感じる」と回答した割合では、男性が女性を 10.0 ポイント上回った。



「感じる」との回答は 20 代から 30 代で減少するが、以後年代が上がるごとに割合が増加する。それに対応する形で「どちらかといえば感じる」との回答は 20 代から 30 代で増加するが、年代を追うごとに減少する。「感じる」と「どちらかといえば感じる」との合計は、最も少ない 70 歳以上で 82.3%、最も多い 40 代でも 86.9%であり、その差は 4.6 ポイントと、6 つの年代を比較した値としてはあまり大きな差とは捉えられない。

(9) 今後、地域課題に関する学習機会を充実させる必要のあるテーマ（内容）

問 8 今後、地域課題に対してどのようなテーマ（内容）の学習機会を充実させることが必要であると考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(n=2,361)

① 地区別の状況

【表 27】

	防災・防犯	子どもの安全確保	家庭教育支援・子育て支援	青少年の健全育成	郷土芸能の伝承	自治会・子ども会等の運営	住民同士の交流	高齢化	人権問題	環境保護・美化	国際化への対応	消費者問題	男女共同参画	過疎化	市街中心部の空洞化	その他
全県 n=2,361	37.9%	33.4%	26.6%	24.9%	12.4%	21.3%	34.6%	50.6%	5.2%	23.5%	3.7%	5.3%	5.4%	13.0%	14.2%	1.1%
河内地区 n=264	46.0%	34.2%	26.6%	22.8%	9.1%	22.8%	34.6%	47.9%	4.6%	25.9%	3.4%	5.3%	3.4%	5.7%	13.3%	0.0%
上都賀地区 n=262	39.7%	35.9%	31.7%	30.2%	10.7%	27.1%	35.9%	45.4%	6.1%	17.9%	3.4%	5.0%	5.7%	15.3%	13.0%	1.5%
芳賀地区 n=238	36.4%	28.0%	19.5%	20.8%	10.2%	22.0%	35.2%	53.4%	1.7%	30.9%	3.4%	7.6%	3.8%	16.1%	17.8%	0.4%
下都賀地区 n=714	39.3%	35.0%	29.4%	27.3%	15.2%	22.7%	35.4%	51.6%	6.2%	22.8%	3.2%	4.8%	6.2%	9.5%	8.7%	1.1%
塩谷南那須地区 n=346	31.3%	29.6%	26.1%	23.2%	13.0%	15.4%	39.4%	54.2%	4.9%	27.0%	4.9%	4.9%	7.0%	21.2%	22.0%	1.2%
那須地区 n=263	36.5%	32.7%	16.7%	21.7%	12.9%	22.4%	29.3%	51.7%	4.2%	21.7%	4.2%	6.1%	6.5%	17.1%	17.5%	3.4%
安足地区 n=274	36.1%	36.5%	30.7%	24.8%	10.2%	16.4%	30.7%	48.2%	6.6%	19.3%	3.6%	4.4%	3.6%	10.2%	14.6%	0.4%

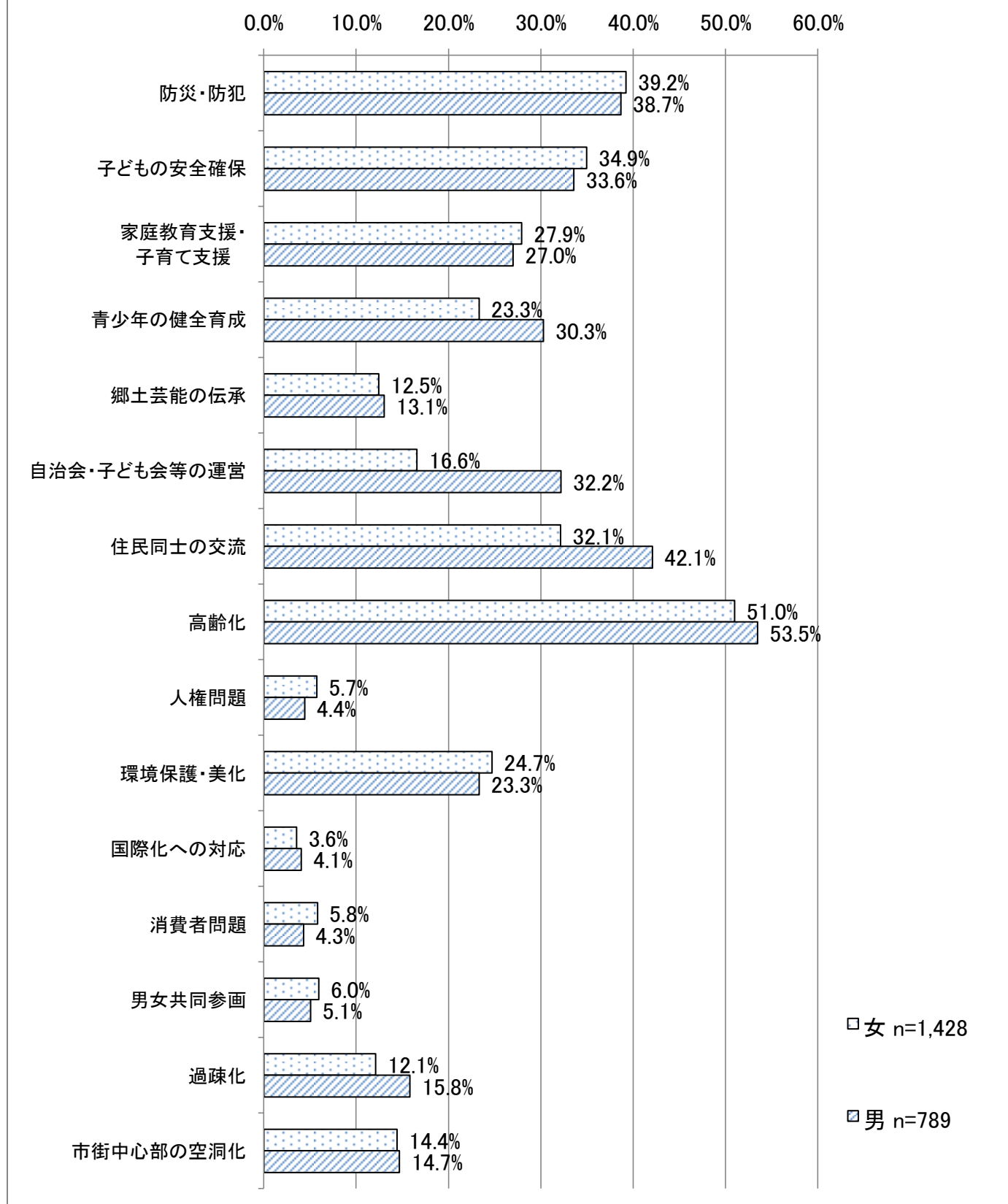
地区により多少の差はあるものの、全県的には「高齢化」、「防災・防犯」、「住民同士の交流」、「子どもの安全確保」の順になっており、地域課題の認識状況と一致する。

個別のテーマ毎に、最大値と最小値の差が 10 ポイント以上離れるものを列挙すると、「防災・防犯」（14.7 ポイント）、「家庭教育支援・子育て支援」（15.0 ポイント）、「環境保護・美化」（13.0 ポイント）、「過疎化」（15.5 ポイント）、「市街中心部の空洞化」（13.3 ポイント）となっている。これら 5 つについては、比較的地区間の差が大きいテーマと捉えることができる。

【表 29】

	1	2	3	4	5	6	7
防災・防犯	河内地区 46.0%	上都賀地区 39.7%	下都賀地区 39.3%	那須地区 36.5%	芳賀地区 36.4%	安足地区 36.1%	塩谷南那須地区 31.3%
子どもの安全確保	安足地区 36.5%	上都賀地区 35.9%	下都賀地区 35.0%	河内地区 34.2%	那須地区 32.7%	塩谷南那須地区 29.6%	芳賀地区 28.0%
家庭教育支援・子育て支援	上都賀地区 31.7%	安足地区 30.7%	下都賀地区 29.4%	河内地区 26.6%	塩谷南那須地区 26.1%	芳賀地区 19.5%	那須地区 16.7%
青少年の健全育成	上都賀地区 30.2%	下都賀地区 27.3%	安足地区 24.8%	塩谷南那須地区 23.2%	河内地区 22.8%	那須地区 21.7%	芳賀地区 20.8%
郷土芸能の伝承	下都賀地区 15.2%	塩谷南那須地区 13.0%	那須地区 12.9%	上都賀地区 10.7%	芳賀地区 10.2%	安足地区 10.2%	河内地区 9.1%
自治会・子ども会等の運営	上都賀地区 27.1%	河内地区 22.8%	下都賀地区 22.7%	那須地区 22.4%	芳賀地区 22.0%	安足地区 16.4%	塩谷南那須地区 15.4%
住民同士の交流	塩谷南那須地区 39.4%	上都賀地区 35.9%	下都賀地区 35.4%	芳賀地区 35.2%	河内地区 34.6%	安足地区 30.7%	那須地区 29.3%
高齢化	塩谷南那須地区 54.2%	芳賀地区 53.4%	那須地区 51.7%	下都賀地区 51.6%	安足地区 48.2%	河内地区 47.9%	上都賀地区 45.4%
人権問題	安足地区 6.6%	下都賀地区 6.2%	上都賀地区 6.1%	塩谷南那須地区 4.9%	河内地区 4.6%	那須地区 4.2%	芳賀地区 1.7%
環境保護・美化	芳賀地区 30.9%	塩谷南那須地区 27.0%	河内地区 25.9%	下都賀地区 22.8%	那須地区 21.7%	安足地区 19.3%	上都賀地区 17.9%
国際化への対応	塩谷南那須地区 4.9%	那須地区 4.2%	安足地区 3.6%	河内地区 3.4%	上都賀地区 3.4%	芳賀地区 3.4%	下都賀地区 3.2%
消費者問題	芳賀地区 7.6%	那須地区 6.1%	河内地区 5.3%	上都賀地区 5.0%	塩谷南那須地区 4.9%	下都賀地区 4.8%	安足地区 4.4%
男女共同参画	塩谷南那須地区 7.0%	那須地区 6.5%	下都賀地区 6.2%	上都賀地区 5.7%	芳賀地区 3.8%	安足地区 3.6%	河内地区 3.4%
過疎化	塩谷南那須地区 21.2%	那須地区 17.1%	芳賀地区 16.1%	上都賀地区 15.3%	安足地区 10.2%	下都賀地区 9.5%	河内地区 5.7%
市街中心部の空洞化	塩谷南那須地区 22.0%	芳賀地区 17.8%	那須地区 17.5%	安足地区 14.6%	河内地区 13.3%	上都賀地区 13.0%	下都賀地区 8.7%

今後学習機会を充実させる必要のあるテーマ(性別)



男女別に比較し、5ポイント以上の開きを明確な差異として捉えると、「青少年の健全育成」、「自治会・子ども会等の運営」、「住民同士の交流」で男性の方が多く、女性が男性を上回る項目はなかった。

	20代 n=85	30代 n=233	40代 n=413	50代 n=413	60代 n=661	70歳以上 n=422
防災・防犯	41.2%	41.6%	41.4%	38.7%	37.1%	38.4%
子どもの安全確保	45.9%	48.1%	43.6%	31.5%	30.0%	30.1%
家庭教育支援・子育て支援	42.4%	40.3%	39.7%	29.1%	20.0%	20.8%
青少年の健全育成	25.9%	27.9%	33.4%	30.5%	21.2%	24.8%
郷土芸能の伝承	27.1%	13.3%	11.4%	13.3%	12.0%	15.8%
自治会・子ども会等の運営	14.1%	24.0%	28.6%	25.4%	18.9%	23.2%
住民同士の交流	29.4%	25.3%	32.4%	36.3%	39.3%	39.4%
高齢化	34.1%	29.6%	40.4%	55.2%	60.2%	50.9%
人権問題	4.7%	6.9%	7.0%	5.1%	3.3%	8.9%
環境保護・美化	23.5%	18.9%	22.3%	25.4%	27.2%	27.8%
国際化への対応	8.2%	5.2%	6.1%	2.2%	2.3%	5.6%
消費者問題	4.7%	3.0%	3.4%	5.1%	5.3%	12.4%
男女共同参画	7.1%	2.1%	4.8%	5.1%	6.4%	10.8%
過疎化	15.3%	12.0%	12.1%	13.6%	14.2%	18.8%
市街中心部の空洞化	14.1%	7.3%	9.2%	14.8%	17.5%	23.4%

年代別の状況においても、すべての年代において「防災・防犯」や「高齢化」が多くなるなど、地域課題の認識と同様の傾向が見られる。

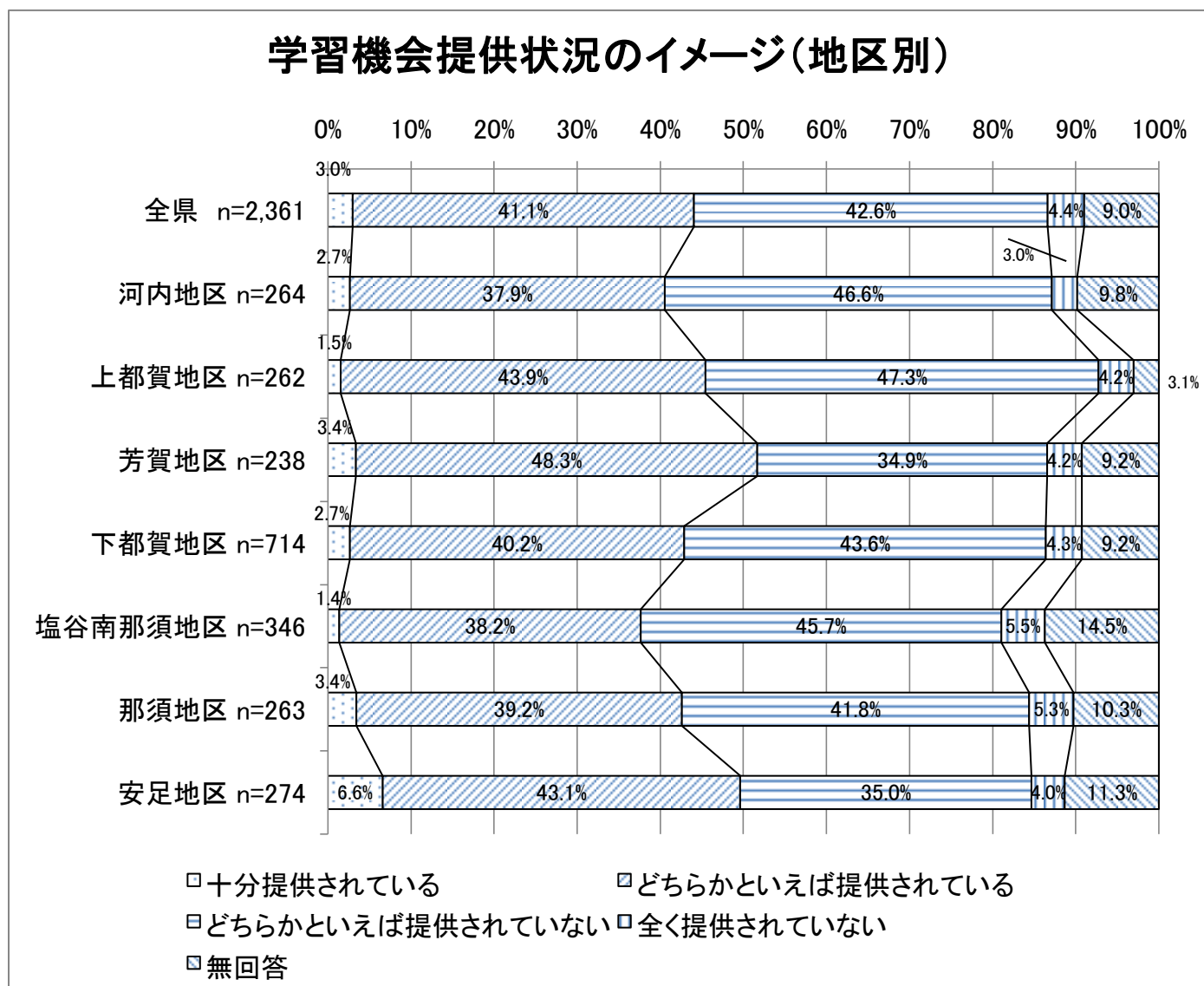
また、20代～40代では、「子どもの安全確保」と「家庭教育支援・子育て支援」が多くなっているのに対し、50代～70歳以上では「高齢化」、「住民同士の交流」、「環境保護・美化」、「市街中心部の空洞化」が多くなっているなど、50歳を境に認識の偏りが生じているのが特徴といえる。また、「防災・防犯」や「消費者問題」についても、数値上の差はそれほど大きくないものの、順位の上では同様の傾向を示している。

(10) 地域課題に関する学習機会提供のイメージ

問 9 地域課題に関して学習する機会は、十分に提供されていると感じますか。もっともよくあてはまる番号 1 つに○をつけてください。 (n=2,361)

① 地区別の状況

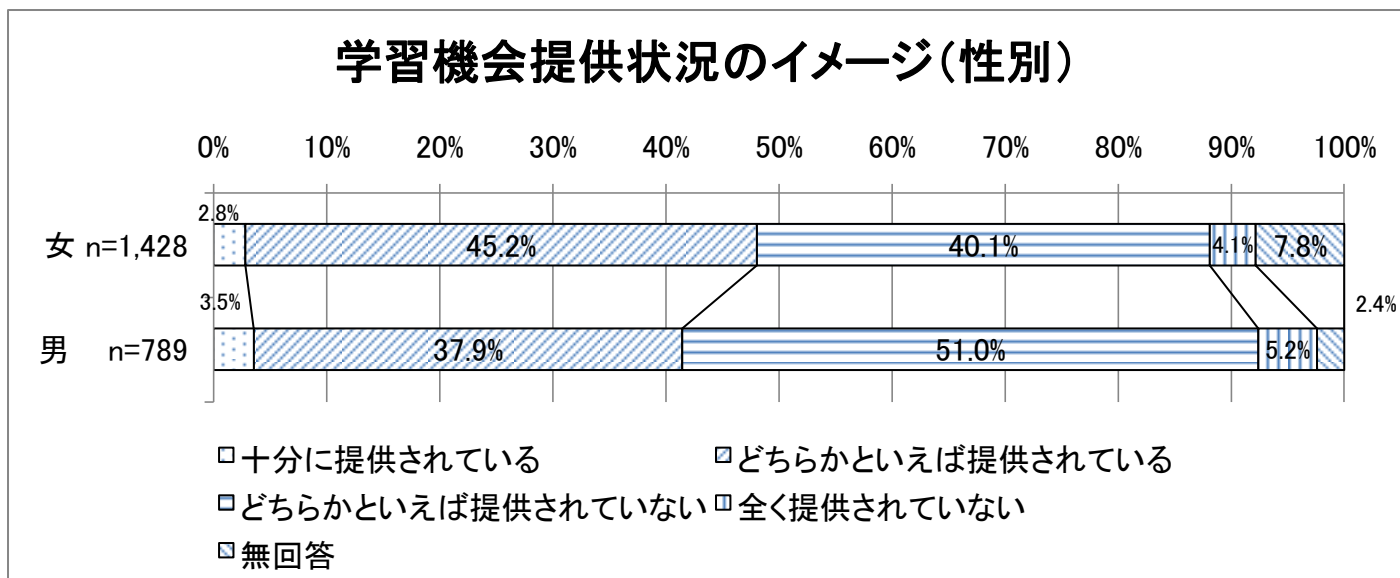
【図 31】



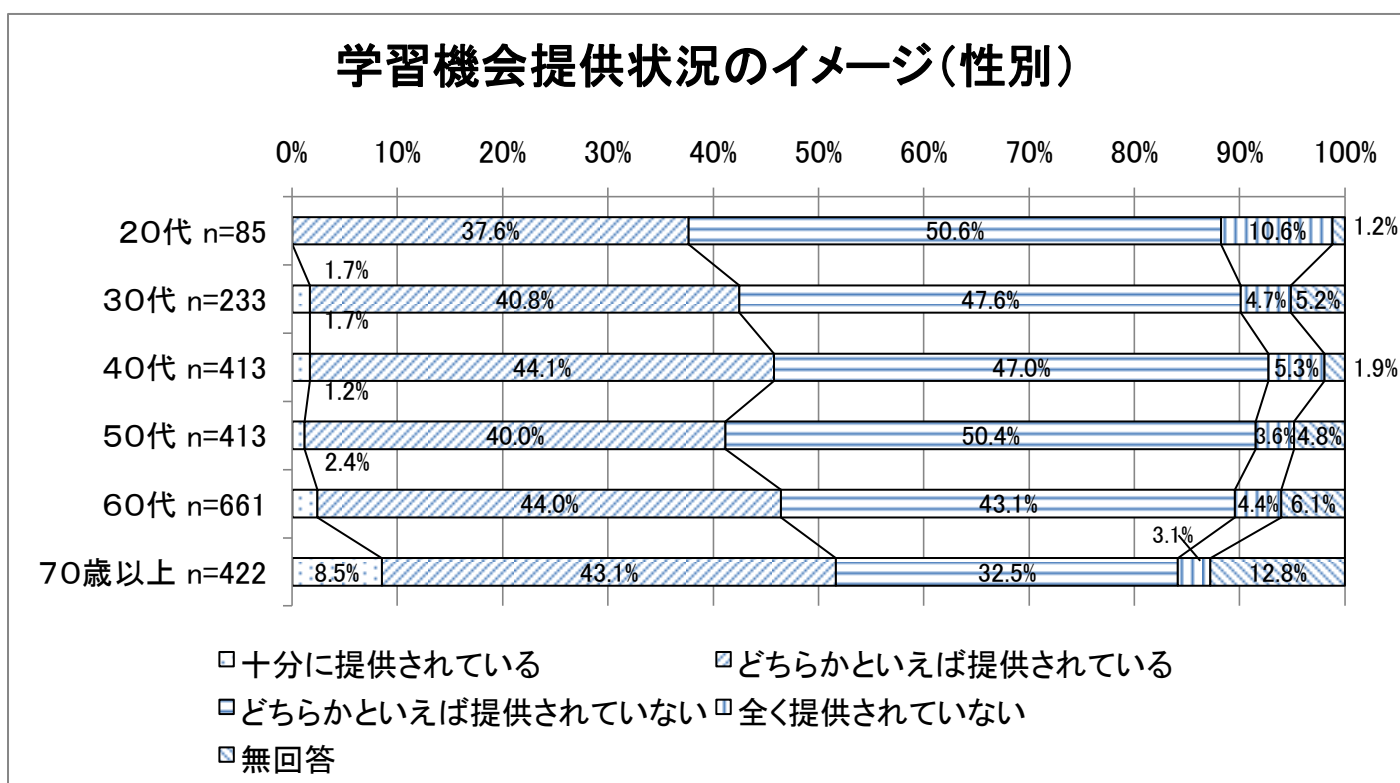
選択肢に「どちらかといえば」という、個人の感覚に大きく依存する表現を使用しており、回答にどの程度正確な状況が反映されるか定かでないため、ここでは、あくまで学習機会提供に関する「イメージ」として捉えることとする。

いずれの地区でも「十分提供されている」、「全く提供されていない」という回答は少なく、「どちらかといえば提供されている」と「どちらかといえば提供されていない」とが拮抗している。

無回答を除き、「十分提供されている」、「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージと「どちらかといえば提供されていない」、「全く提供されていない」という否定的なイメージを比較したとき、肯定的なイメージが否定的なイメージを上回ったのは芳賀・安足の2地区のみであった。また、県全体で両者の値を比較すると、否定的なイメージが肯定的なイメージを2.9ポイント上回っている。



「十分提供されている」、「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは女性で合計 48.0%、男性で合計 41.2%であり、女性が男性を 6.8 ポイント上回った。また、女性は肯定的なイメージが否定的なイメージを 3.8 ポイント上回っているが、男性では否定的なイメージが肯定的なイメージを 15.0 ポイントと大きく上回っている。



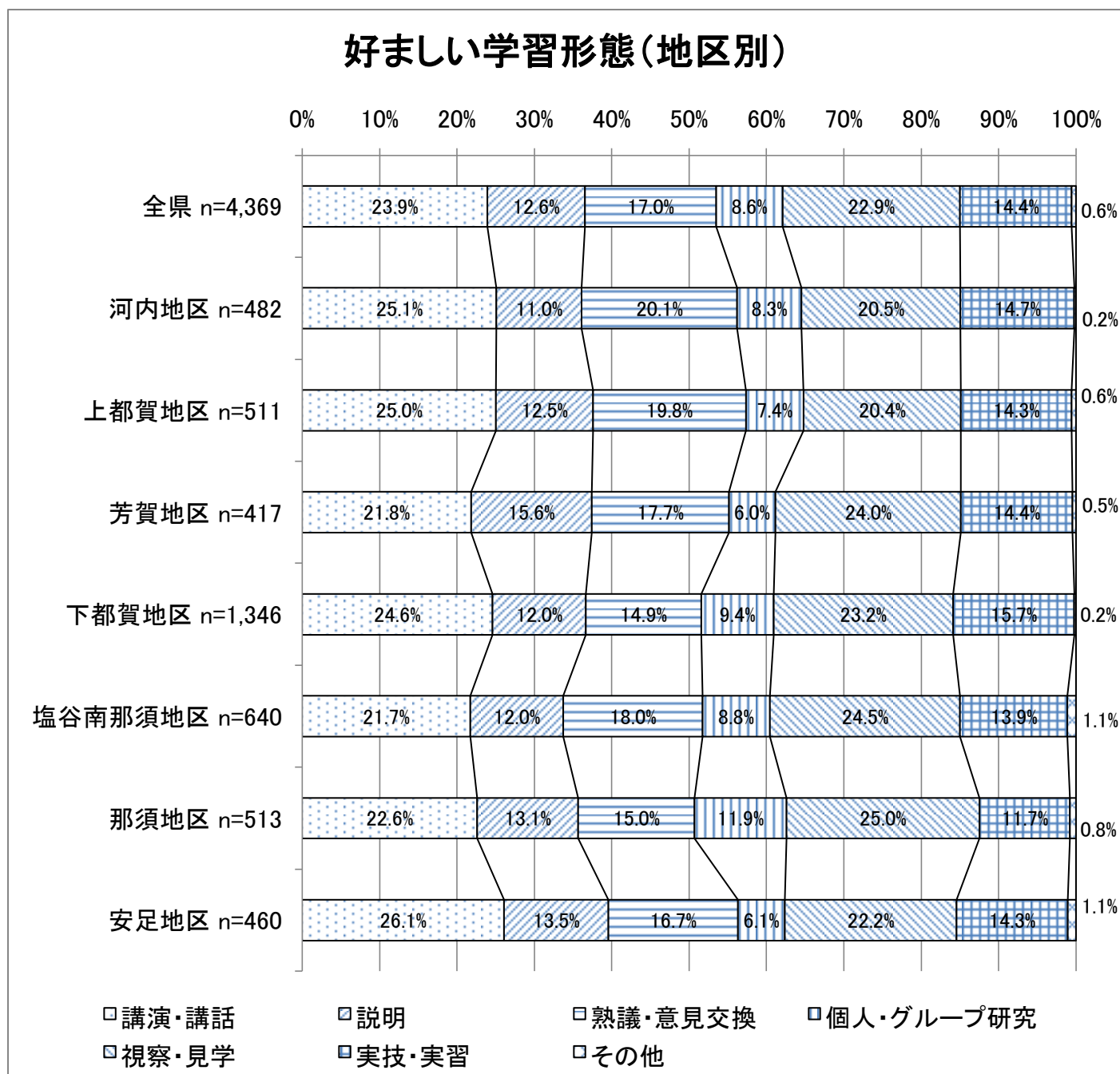
年代別に見ると、50代で若干減少するものの、年代が上がるにつれて肯定的なイメージも増加する状況が見られる。また、20代～50代では否定的なイメージが肯定的なイメージを上回るが、60代でほぼ拮抗し、70代では肯定的なイメージが否定的なイメージを 16.0 ポイント上回る。

(11) 好ましい学習形態

問 10 地域課題の学習は、どのような形態で行われると参加したいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 (n=4,369)

① 地区別の状況

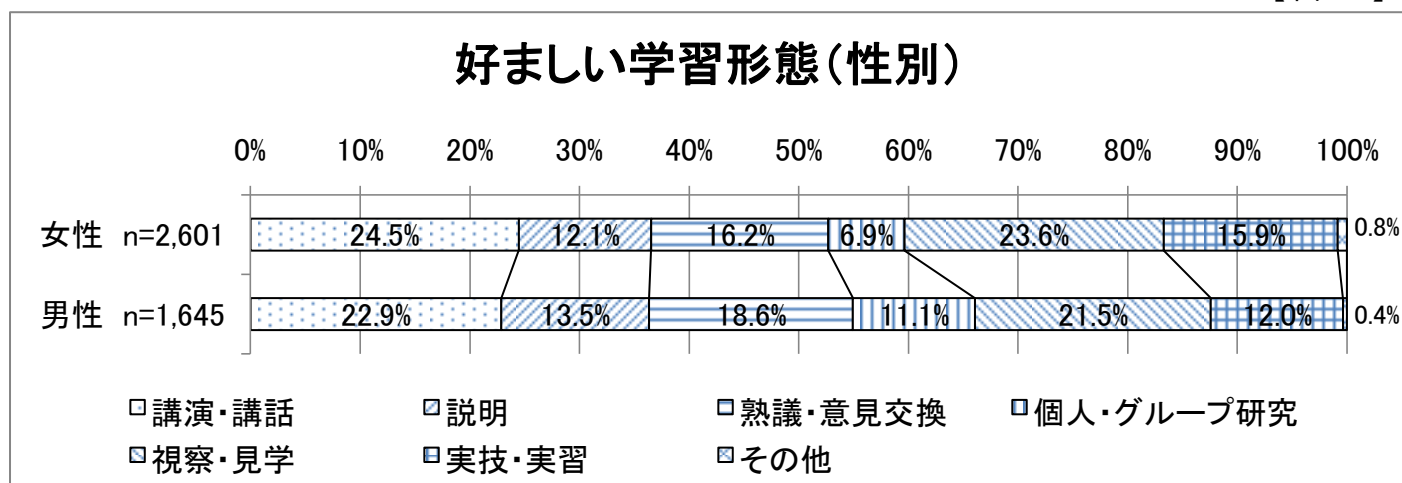
【図 34】



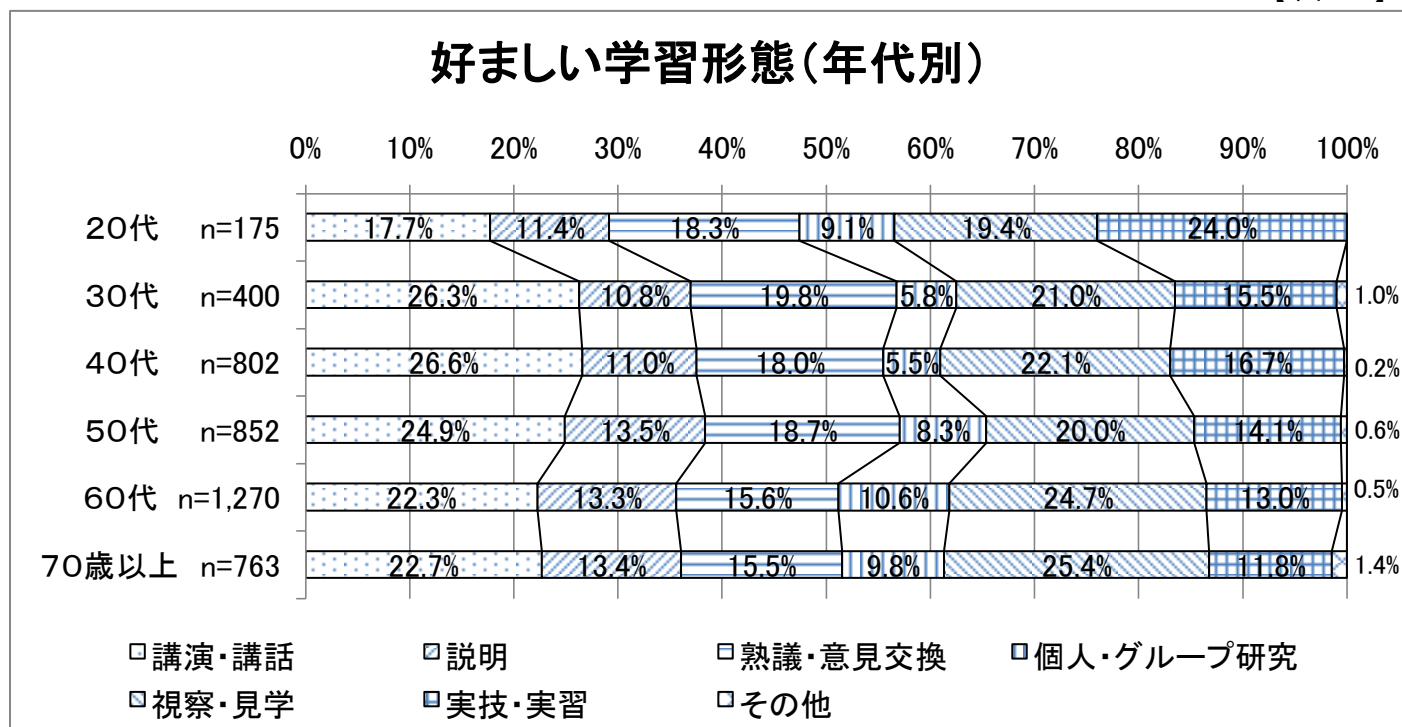
2,361名からのべ4,369の回答を得た。ここでは、グラフによる比較の便宜を考慮し、回答総数に対する割合を示した。

地域課題に関する学習で、参加したいと考える好ましい学習形態については、4地区で「講演・講話」が、3地区で「視察・見学」が最上位となり、県全体でも「講演・講話」が1.0ポイントとわずかに「視察・見学」を上回った。

これら上位2つに、「熟議・意見交換」と「実技・実習」の順で続くのも、ほぼ全県的な傾向となっている。



好ましい学習形態について、女性は県全体のデータと同様の順位となっているが、男性では「説明」が「実技・実習」を上回る。また、男女を比較すると、多くの項目が概ね 2 ポイント程度の差であるのに対し、「個人・グループ研究」では男性が女性を 4.2 ポイント上回り、「実技・実習」では女性が男性より 3.9 ポイント多くなっているのが特徴といえる。



年代別に見ると、20代では他の年代と比較して「講演・講話」が少なく、「実技・実習」が多くなっているのが特徴的である。

項目ごとに見ると、「説明」に関しては、40代以下が概ね 11%前後であるのに対し、50代以上では 13%代半ばとなっており、40代以下と 50代以上で 2つのグループに分けることが可能である。また、同様に見ていくと、「熟議・意見交換」、「視察・見学」では 50代以下と 60代以上に分けられ、「個人・グループ研究」では 30代～40代が少なくなっているなど、いくつかの傾向を見いだすことができる。